



実施計画書

2023.4.28

第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会

目次

第1章 全体概要

1. 大会概要	1
2. 北海道の特色	2
3. 開催の意義・基本理念・基本方針	3
4. 計画概要	4
5. 会場配置	5
6. 行事構成	6

第2章 行事計画

1. 式典行事計画	8～18
2. 海上歓迎・放流行事計画	19～24
3. 関連行事計画	25
4. 絵画・習字優秀作品御覧計画	26
5. 御懇談計画	27

第3章 大会運営計画

1. 実施本部設置計画	29～31
2. 招待者管理計画	32～34
3. 宿泊計画	35
4. 輸送計画	36
5. 駐車場計画	37
6. 交通計画	38
7. 救護計画	39
8. 案内サービス計画	40
9. 映像中継計画	41
10. 荒天時計画	42
11. 判定会議設置計画	43～46
12. 会場管理計画	47～50
13. 新型コロナウイルス感染症対策計画	51

第4章 機運醸成及び広報計画

1. 作品募集計画	53～54
2. 機運醸成計画	55
3. 広報計画	56
4. スケジュール	57



第1章

全体概要

全国豊かな海づくり大会は、例年、天皇皇后両陛下の御臨席のもとに開催されていることから、「第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会」においても、天皇皇后両陛下の御臨席を想定し、大会実施計画を作成しています。

また、各行事計画の詳細（進行、演出等）については、変更する場合があります。

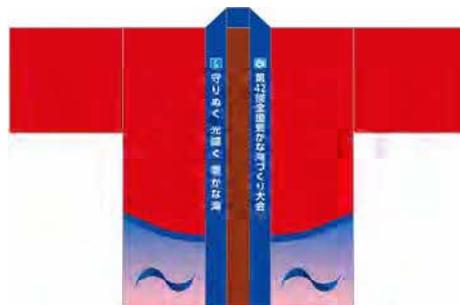
- **大会名称** 第42回全国豊かな海づくり大会
- **主催** 豊かな海づくり大会推進委員会（※）
第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会
- **開催時期** 令和5年9月16日（土）・17日（日）
- **開催場所** 【式典行事】 厚岸町 厚岸漁港 屋根付き岸壁特設会場
【海上歓迎・放流行事】 厚岸町 厚岸漁港
【関連行事】 厚岸町 厚岸漁港湖北岸壁
釧路市 釧路市観光国際交流センター広場・幸町緑地
- **招待者数** 式典行事 1,000名程度
海上歓迎・放流行事 1,000名程度
- **大会テーマ** 守りぬく 光輝く 豊かな海
- **大会ロゴマーク・コスチュームデザイン**

「第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会」の開催趣旨にふさわしいデザインを公募により決定

<ロゴマーク>



<前面>



<背面>



※ 豊かな海づくり大会推進委員会
大会運営のために中央に設置されている委員会。最高顧問は衆議院議長、会長は全国漁業協同組合連合会
代表理事会長が務めている。

(1) 魅力ある多彩な資源

北海道は、それぞれ特性の異なる日本海、太平洋、オホーツク海に囲まれ、雄大かつ変化に富む山地、広大な平野部、多くの島しょ部、数々の湿原や湖沼などを有し、人々は古くからこの豊かな自然と緊密に結びつきながら、独自の文化と歴史を持ち、狩猟や漁労、採集を中心とする生活を営んでいました。

明治時代には、全国各地からの入植者によって数々の苦難を乗り越えながら開拓が行われたほか、欧米の技術や文化を導入するなど、先人たちの勇気と知恵によって近代化を進め、今日の生活の礎を築いてきました。

近年では、この豊かな自然の恵みを背景に、多様な農林水産業が営まれ、新鮮で豊富な素材を活かした美味しい食、世界自然遺産に登録された知床をはじめ多彩な表情を見せる風景など、地域の魅力ある観光資源によって、国内外から多くの人々が訪れています。

(2) 北海道の水産業

北海道の周辺海域は、北方に広く展開する大陸棚と日本海の武蔵堆などを擁し、海底地形が起伏に富んでいるほか、道東太平洋沖では黒潮と親潮が交錯して潮目がつくられるなど好漁場となっています。

この豊かな恵みを受け、漁業や水産加工業を中心に今日の水産都市や漁村が海岸線に沿って形成されてきました。

漁業生産は、主要魚種である秋サケ、ホタテガイ、コンブを中心に様々な魚種が生産され、数量・金額ともに都道府道別で第1位となっているほか、湖沼や河川では、シジミ、ワカサギなどが生産されています。

一方、近年、海洋環境の変化や漁業者の減少、高齢化等により秋サケ、コンブ、イカ、サンマなどの生産が大幅に減少し漁業経営の悪化を招いています。

水産業を取り巻く環境が大きく変化する中、北海道では漁業生産の早期回復と安定を図るため、新たな増養殖への挑戦と栽培漁業の対象資源の生産回復に向けた取組を推進しています。

【サケ】



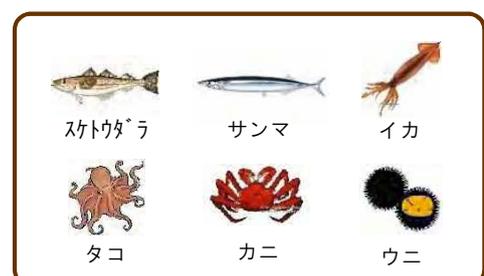
【ホタテ】



《北海道の主な水産物》



【コンブ】



開催の意義

北海道において昭和60年以来2度目となる「全国豊かな海づくり大会」を開催することは、世界的に問題となっている海洋プラスチックごみ対策など環境保全に対する道民の意識を高めるとともに、将来にわたって持続的に漁業が行えるよう、増養殖技術の向上や地域資源の有効利用・付加価値向上など、さまざまな取組を通して、豊かな海の恵みを守り次世代につなげる生産者の想いを全国に知ってもらおう絶好の機会となります。

また、世界的にも需要が高い道産水産物をはじめとした食や魅力ある地域資源を活かしたイベント、四季折々の自然、独自の文化など「北海道ブランド」を全国にPRし経済の活性化につなげていきます。

基本理念

先人たちが守り続けた豊かな海の恵みに感謝し、この大切な財産を次の世代につなげるとともに、栽培漁業や地域資源の利活用など多様な取組を「オール北海道」で推し進め、水産業の持続的な発展と地域の活性化を図ります。

基本方針

(1) 豊かな自然の保全と継承

海洋プラスチックごみ対策など環境保全の取組を推進し、豊かな自然の恵みを次の世代につなげていく大会とします。

(2) 地域を支える水産業の発展

漁業生産の早期回復に向け栽培漁業を一層推進するとともに、都市部との多様な交流や連携などにより、水産業の発展と地域の活性化につなげる大会とします。

(3) 北海道ブランドの魅力発信

豊かな自然が育んだ高品質で安全・安心な食などに代表される「北海道ブランド」の魅力を高める大会とします。

(4) 北海道独自の歴史や文化の理解促進

アイヌ文化をはじめ、本道の特色ある歴史や文化への理解をより一層深める大会とします。



海浜清掃



稚魚の放流



国立アイヌ民族博物館
[ウポポイ]

写真提供：(公財)アイヌ民族文化財団

基本的な考え方

本道の豊かな海の恵みを守り、次世代につなげる環境保全の取組や栽培漁業などの取組を全国に発信する機会とします。

また、道産水産物をはじめとした世界に誇る「北海道ブランド」の魅力が満喫できる多彩な催しや心のこもった“おもてなし”で道内外からの来場者をお迎えします。

行事構成

(1) 式典行事

栽培漁業や資源管理、漁場保全など、豊かな海づくりの取組に功績のあった団体の表彰、最優秀作文の発表、漁業後継者のメッセージや大会決議などを行います。

(2) 海上歓迎・放流行事

漁業関係者の協力を得て、漁船等による海上パレードを行うとともに、次世代へ豊かな海をつなげるため、それぞれが願いを込めて、本道の栽培漁業を代表する魚種の稚魚を放流します。

(3) 絵画・習字優秀作品御覧

全国豊かな海づくり大会を記念して、道内の児童・生徒を対象に絵画・習字コンクールを実施し、優秀作品を御覧いただきます。

(4) 御懇談

全国豊かな海づくり大会の開催に併せて行われる功績団体表彰の受賞者や道内漁業後継者等と御懇談いただきます。

(5) 関連行事

道内外からの来場者に、本道の特色ある水産業をはじめ、豊かな海づくりにつながる環境保全等に向けた取組や、魅力あふれる「北海道ブランド」などを広く紹介します。

また、大会を記念した絵画・習字コンクールの入賞作品の展示、ステージイベント、物産品販売等を行い、本道の魅力を満喫していただきます。



兵庫大会（令和4年）の実施状況

* 写真提供：兵庫県

基本的な考え方

会場となる施設や敷地の形状、設備、景観とともに、式典行事及び海上歓迎・放流行事を同一施設内で開催する利点を最大限に活かし、すべての来場者に安全・安心で快適な空間と豊かな海を実感していただけるような会場づくりを計画します。

(1) 式典行事会場【厚岸漁港 屋根付き岸壁特設会場（厚岸町）】

道内屈指の規模を誇る屋根付き岸壁背後を活用した特設会場にて式典行事を行います。

(2) 海上歓迎・放流行事会場【厚岸漁港（厚岸町）】

厚岸湾や大黒島を臨む風光明媚なロケーションを活かし、式典行事会場に隣接する岸壁と水域を利用して海上歓迎行事と放流行事を行います。

(3) 関連行事会場【厚岸漁港湖北岸壁（厚岸町）】 【釧路市観光国際交流センター広場・幸町緑地（釧路市）】

本道の水産業や豊かな海づくり活動に関する企画展示やステージイベント、ふれあい体験、物産販売エリアなどで構成し、北海道の魅力を発信する会場づくりを行います。

会場配置図



基本的な考え方

(1) 基本的な考え方

各行事のタイムスケジュールに従い、招待者及び来場者の移動がスムーズに行えるよう、安全面・機能面を十分に考慮した計画とします。

式典行事会場、海上歓迎・放流行事会場を同一会場で行う利点を活かし、豊かな海づくりを実感できる一体感のある演出を行います。また、大型映像装置を活用した映像中継などを行います。

(2) 行事スケジュール

会場		式典行事会場	海上歓迎・放流行事会場	関連行事会場	その他行事会場
		厚岸漁港 屋根付き岸壁特設会場		厚岸漁港湖北岸壁（厚岸町） 釧路市観光国際交流センター広場・幸町緑地（釧路市）	釧路市内
第一日目	9:00	総合リハーサル	総合リハーサル	関連行事 ・企画展示 ・ステージイベント ・ふれあい体験 ・物産販売	
	17:00				
第二日目	10:00	開場		関連行事 ・企画展示 ・ステージイベント ・ふれあい体験 ・物産販売	
	12:00	プロローグ 式典行事			行事中継 ・式典行事 ・海上歓迎放流行事
	15:00		海上歓迎・放流行事		
	17:00				



第2章

行事計画

基本的な考え方

厳粛で品位のある進行を基本に、豊かな海や自然を守り続けていくことの重要性を全国に発信する内容とします。

また、これまで豊かな海づくりのために実践してきた栽培漁業や資源管理型漁業、環境保全に向けた新たな取組を紹介し、大会を通じて「豊かな海」を次世代につなぐことを誓う場とします。

日時等

- 期 日：令和5年9月17日（日）午後
- 場 所：厚岸漁港 屋根付き岸壁特設会場
- 招待者数：1,000名程度

実施内容

（1）構成

式典行事会場では、プロローグ、表彰、稚魚等のお手渡し、海づくりメッセージ、エピローグなどを行います。

（2）演出の考え方

ア 北海道の栽培漁業の取組について、漁業者の声や将来を担う高校生の活動などを映像と交えて紹介するなど、豊かな水産業の方向性・可能性を示します。

イ 海洋プラスチックごみ対策や植樹活動など、海の環境保全に対する北海道の取組を紹介し、持続可能な豊かな海と自然の恵みを次世代につなげていく決意を発信します。

ウ 自然が育んだ高品質な「北海道ブランド」の食の魅力、北海道の海の伝統、アイヌ文化をはじめとする北海道の特色や歴史などを演出に活かします。

（3）基本的な構成・内容

式典行事は、華美にならない装飾のステージで、厳粛で品位ある進行を行います。

プロローグでは、北海道の海の豊かさや地域の伝統と魅力をパフォーマンスなどで表現するとともに、栽培漁業、海洋プラスチックごみ対策、海の環境を守る活動などを映像とともに紹介します。

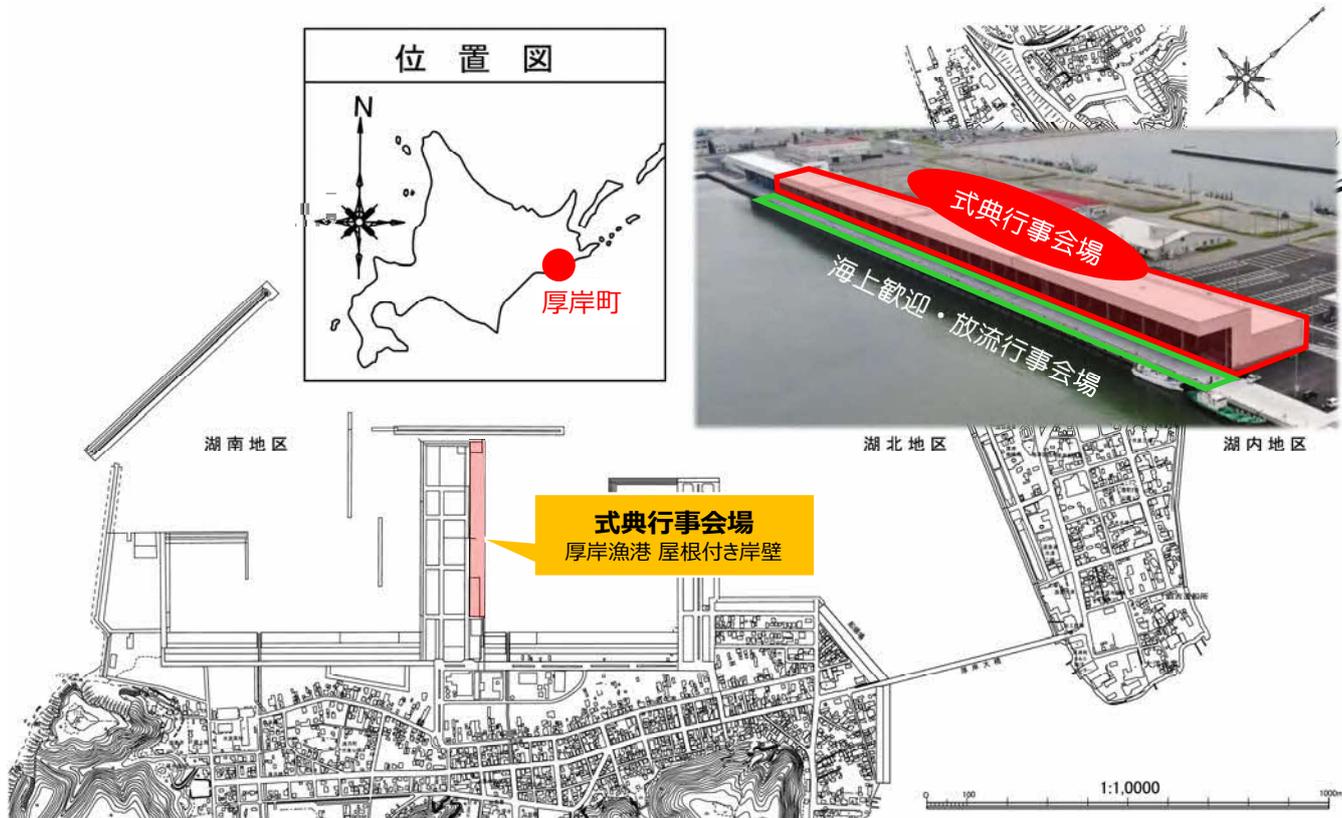
表彰では、豊かな海づくりに功績があった団体などの表彰を行います。

稚魚等のお手渡しでは、漁業関係者に対し、北海道を代表する魚種の稚魚等のお手渡しが行われます。

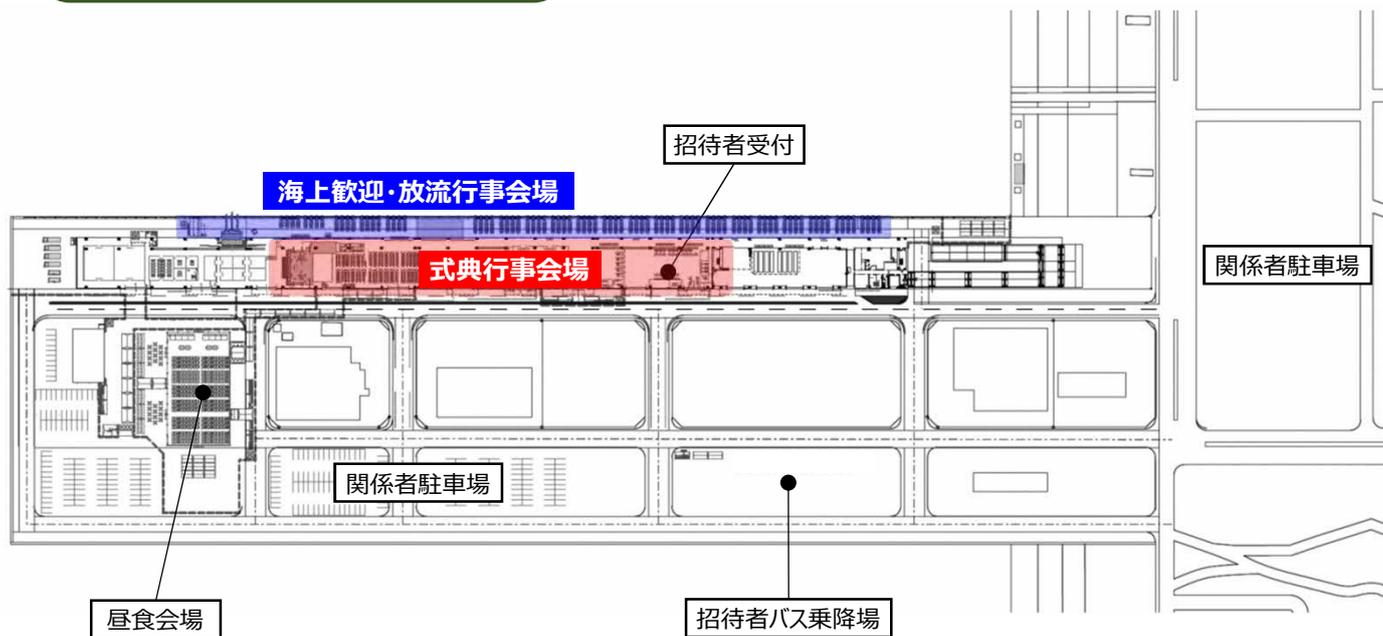
海づくりメッセージでは、北海道の漁業者・水産業者、関係者たちが協力して、持続的に発展し続けることができる豊かな海をつくっていく決意を力強く発信します。

エピローグでは、海の明るい未来に向けた希望を、音楽やパフォーマンスなどで会場と共有します。

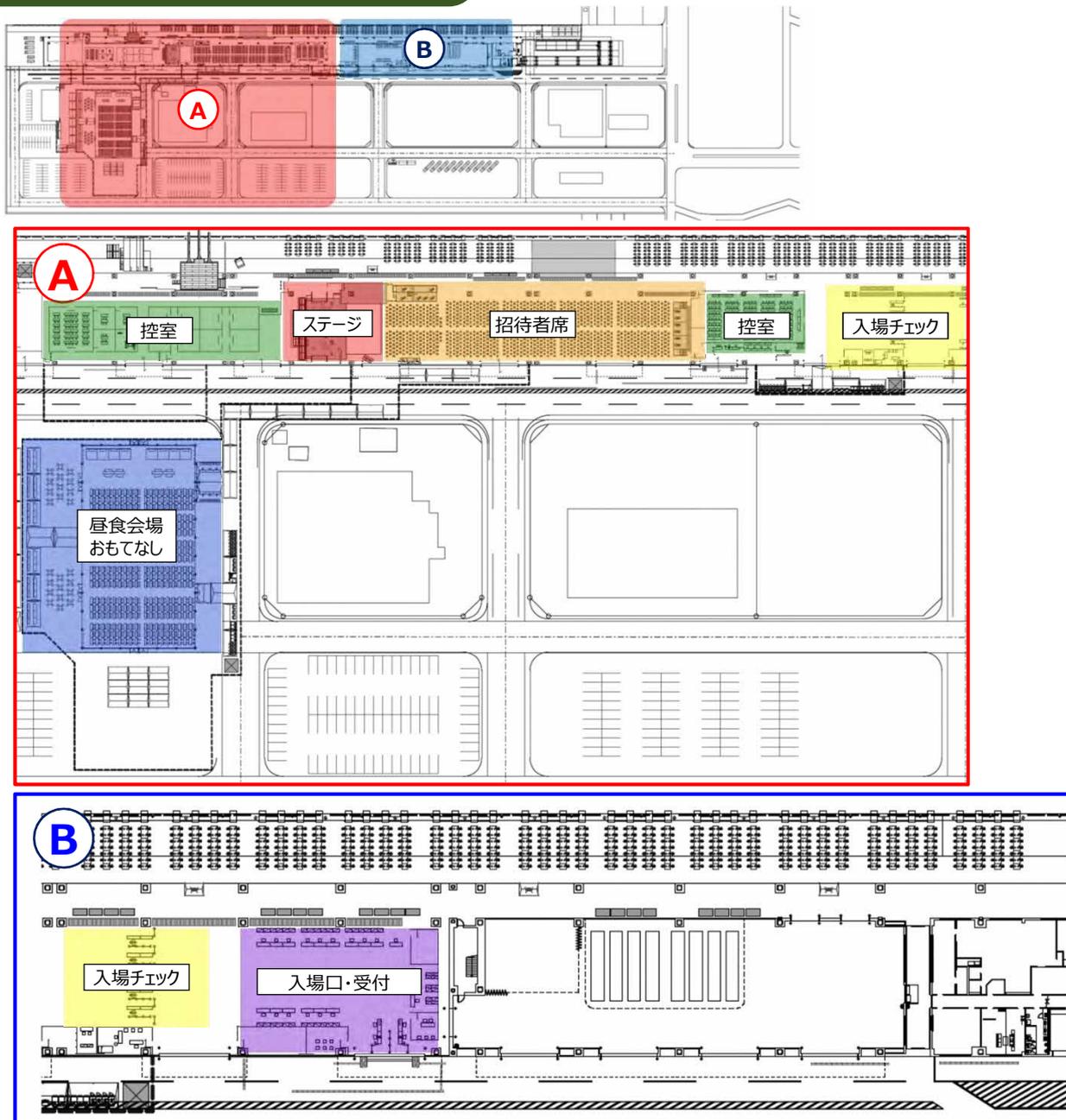
会場周辺図



会場全体図



会場拡大図



イメージパース



演出進行表

所要時間	次第	演出内容	出演者等	音楽	映像	
130'	招待者入場開始 招待者着席	招待者順次入場 北海道紹介の映像上映（観光ビデオ等）		VTR 音声	VTR 映像	
30'	プログラム	第1章 豊かな3つの海をもつ北海道	ナビゲーター：千堂 あきは（調整中） 地元の郷土芸能団体 地元関係者、高校生、小学生 など	VTR 音声 & ライブ 音声	VTR 映像 & ライブ 映像	
		第2章 栽培漁業とブランド化				太平洋、日本海、オホーツク海の3つの海をめぐる、北海道の海の豊かさを案内。また、開催地の郷土芸能も披露。
		第3章 海洋ごみ問題と豊かな海づくり				釧路管内を中心に、栽培漁業やブランド化への試みの実際を紹介。現場の工夫や肉声も取り入れる。
		海洋プラスチックごみ対策や廃漁網リサイクルなど、海の環境保全活動の取組を紹介し、持続可能な豊かな海を守る思いを表現。				
6'	受賞者紹介	受賞者紹介映像を上映		BGM	VTR 映像	
4'	進行概要説明	司会より開催概要、プログラム、式典中の注意事項等を説明	司会者	—	—	
4'	登壇者／式典補助員紹介	登壇者・式典補助員等の紹介	登壇者 式典補助員：霧多布高等学校 釧路東高等学校	—	ライブ 映像	
3'	奉迎準備	司会者による奉迎の案内		BGM	ライブ 映像	
1'	御臨席	北海道知事の先導により御臨席	先導：北海道知事	BGM	ライブ 映像	
3'	大会旗入場	BGMに合わせて大会旗が入場	旗手：厚岸翔洋高等学校	BGM	ライブ 映像	
		北海道議会議長が旗手より大会旗受取	北海道議会議長			
1'	開会のことば	（一社）北海道水産会代表理事会長 （北海道漁業協同組合連合会代表理事会長） より開会のことば	（一社）北海道水産会代表理事会長 （北海道漁業協同組合連合会代表理事 会会長）	BGM	ライブ 映像	
2'	国歌静聴		式典音楽隊	BGM	VTR 映像	
8'	主催者あいさつ	全国豊かな海づくり大会会長	大会会長（衆議院議長）	—	ライブ 映像	
		北海道実行委員会会長	北海道知事			
3'	歓迎のことば	厚岸町長より歓迎のことば	厚岸町長	—	ライブ 映像	
4'	天皇陛下のおことば			—	ライブ 映像	
4'	功績団体等表彰	授与者はステージ下手、受賞者は上手に整列 全国豊かな海づくり大会会長賞、農林水産大臣賞 環境大臣賞、水産庁長官賞、北海道知事賞	各賞受賞者代表	BGM	ライブ 映像	
4'	最優秀作文の発表	大会会長賞受賞者より作文朗読	大会会長賞受賞者代表	—	ライブ 映像	
4'	稚魚等のお手渡し	水産関係者等へ稚魚等をお手渡し	お受取：漁業関係者 介添え：厚岸翔洋高等学校	BGM	ライブ 映像	

所要時間	次第	演出内容	出演者等	音楽	映像
10'	海づくりメッセージ	メッセージ① (若手など)	漁業者 水産業関係者 環境保全等の取組実践者 など 進行：総司会会+千堂 あきほ（調整中）	BGM	VTR 映像 & ライブ 映像
		メッセージ② (夫婦など)			
		メッセージ③ (環境保全活動 の関係者など)			
		協力&決意 (登壇者全員)	登壇者（メッセージ発言者）が一緒になって、 北海道の水産業の未来、そして持続可能な 豊かな海をつくる決意を高らかに発信。		
3'	大会決議	大会推進委員会会長より大会決議	豊かな海づくり大会推進委員会会長 (全国漁業協同組合連合会代表理事会長)	—	ライブ 映像
4'	大会旗引継 次期開催県あいさつ	北海道知事から大分県知事へ大会旗引継 大会旗引継ぎ後、大分県知事よりあいさつ	北海道知事 大分県知事	BGM	ライブ 映像
1'	閉会のことば	北海道議会議長より閉会のことば	北海道議会議長	—	ライブ 映像
2'	御退席	北海道知事の先導により御退席	先導：北海道知事	BGM	ライブ 映像
10'	登壇者退席	登壇者退席 司会より今後の予定等の案内 表彰式準備	司会者	BGM	ライブ 映像
15'	エ ピ ロ ー グ	作品コンクール表彰	北海道副知事 受賞者	BGM	ライブ 映像
7'		エピソード	ナビゲーター自身が、大会全体の感想を含め、 海への想いを語る。 そして、音楽やパフォーマンスなどで、会場全 体で豊かな海をつかっていく思いを共有。	VTR 音声	VTR 映像 + ライブ 映像
4'	終了				

兵庫大会（令和4年）での実施状況



大会旗入場



功績団体などの表彰



次期開催県への大会旗引継

* 写真提供：兵庫県

登壇者・出演者一覧

登壇者	来賓	農林水産大臣 環境大臣 水産庁長官 大分県知事〔次期開催県〕
	主催者	全国豊かな海づくり大会会長〔衆議院議長〕 豊かな海づくり大会推進委員会会長〔全国漁業協同組合連合会代表理事会長〕 第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会会長〔北海道知事〕 第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会副会長〔厚岸町長〕 第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会副会長 〔（一社）北海道水産会代表理事会長（北海道漁業協同組合連合会代表理事会長）〕 第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会顧問〔北海道議会議長〕 第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会顧問〔厚岸町議会議長〕
	作文発表者	最優秀作文発表者
	受賞代表者	大会会長賞受賞代表者 農林水産大臣賞受賞代表者 環境大臣賞受賞代表者 水産庁長官賞受賞代表者 北海道知事賞受賞代表者
出演者等	プロローグ 出演者	ナビゲーター：千堂 あきほ（北海道漁協女性部応援大使・2019～）（調整中） 和太鼓演奏：北海道くしろ蝦夷太鼓保存会、釧路太平洋太鼓保存会 伝統芸能（厚岸かぐら）：厚岸かぐら同好会、（継承校）真龍小学校 道内（道東海域以外）の栽培漁業の事例紹介：道内水産高校など（調整中） 海洋ゴミ問題、海の環境問題の事例紹介：道内水産高校など（調整中）
	海づくり メッセージ 出演者	漁業者 水産業界関係者 環境保全等の取組実践者など（調整中）
	大会旗入場 出演者	旗手：厚岸翔洋高等学校
	稚魚等の お手渡し 出演者	お受取：漁業関係者 介添え：厚岸翔洋高等学校
	式典補助員	霧多布高等学校、釧路東高等学校
	受賞者	作品コンクール（作文・絵画・習字）各部門の受賞者
	エピローグ 出演者	ナビゲーター：千堂 あきほ（調整中）
	式典音楽隊	釧路交響楽団

演出の考え方

(1) 北海道の海と多彩な魅力、栽培漁業、海洋プラスチックごみ対策などの試みを紹介し、持続可能な豊かな海を守り育てていく決意を発信

- ア 皇室ご臨席行事にふさわしい格調のある式典を執り行い、世代を超えた協力で北海道の海づくりへの決意を力強く発信します。
- イ 北海道のさまざまな栽培漁業の取組、海洋プラスチックごみ対策をはじめとする海の環境保全の活動について、漁業者の声や将来を担う高校生の活動などを映像と交えて具体的に紹介します。
- ウ 北海道の3つの海、大自然や歴史、食をはじめとする北海道ブランド、そして開催地の伝統芸能などを紹介し、北海道の魅力を全国に伝えます。

(2) 展開とねらい

プロローグ、式典、エピローグを通じて、北海道の海の豊かさ、持続可能な水産業への取組を紹介し、豊かな海を守る想いを会場全体と共有します。

構成	展開とねらい
プロローグ	全国からの参加者に開催地の芸能などで歓迎の意を表するとともに、北海道の海の豊かさ、栽培漁業、海洋環境の保全活動などを、映像を交えながら、ストーリー性をもって紹介します。
式典 (海づくりメッセージ)	「海づくりメッセージ」では、漁業者や地域の関係者、若者などが、世代をつないで北海道の豊かな海を創っていく決意を高らかに発信します。
エピローグ	北海道、そして全国の海の明るい未来に願いを込めた音楽やパフォーマンスなどで、明るい希望のなかに式典行事を終了します。

(3) 式典に親しみやすさを醸成するナビゲーターの起用

式典行事全体の進行を総合司会と協力しながら進め、式典に統一感と親しみやすさを与える役割としてナビゲーターを起用します。

ナビゲーターには、出演者と参加者の橋渡し役を務めてもらうほか、ご自分の体験をもとに海の未来への想いを語っていただきます。

■ ナビゲーター 千堂 あきほ (せんどう あきほ)

女優、タレント、歌手として、多くのトレンドドラマなどに出演。
現在は、活動の拠点を北海道におき、主婦目線で活躍。
北海道漁協女性部応援大使として、北海道の多くの漁港や家族を訪ね、北海道の水産物のPRを行っている。
この経験をふまえ、大会の意義と北海道の魅力を楽しく具体的に発信していただくことを期待。



演出イメージと展開

(1) プロローグ

全国から来場された参加者に、北海道の海の豊かさ、大自然に支えられた多様な魅力を紹介するほか、持続可能な水産業の確立に向けた栽培漁業の取組、さらに海洋プラスチックごみ対策をはじめとする環境保全活動について、漁業者の声や将来を担う高校生の活動などを映像を交えて紹介します。

演出イメージ（案）	出演者
<p>□ 第1章 豊かな3つの海をもつ北海道</p> <p>◎ 北海道の3つの海をめぐる釧路・厚岸へ</p> <p>北海道の海の波の高鳴りを思わせる太鼓演奏につづき、映像が始まる。日本海～オホーツク海～太平洋へとめぐりながら、各地の水産業と特色・魅力を紹介します。 最後に開催地・厚岸にもどり、ステージでは地元の海の伝統を伝える「厚岸かぐら」が披露されます。</p> <p>□ 第2章 栽培漁業とブランド化</p> <p>◎ 釧路・厚岸での実践例の紹介</p> <p>釧路管内を中心に、道内の栽培漁業やブランド化の取組事例を漁業者の声や高校生の活動など映像を交えて紹介し、地域づくりへの夢を会場に伝えます。</p> <p>□ 第3章 海洋ごみ問題と豊かな海づくり</p> <p>◎ 北海道を起点に全国にひろがるネットワーク</p> <p>厚岸・北海道の廃漁網が全国の関係者のネットワークでリサイクルされ、美しい鞆になった話を紹介しながら、海洋プラスチックごみ対策の今後の方向性をさぐっていきます。 また、道内の高校生が行っている、海の環境保全に関する活動事例を紹介し、未来に向けて豊かな海を守り続ける想いを会場と共有します。</p>	<p>* ナビゲーター 千堂あきほ（調整中）</p> <p>* 太鼓団体</p> <p>* 伝統芸能団体 （厚岸かぐら） など</p> <p>* 地域の関係者</p> <p>* 高校生 など</p> <p>* 地域の関係者</p> <p>* 高校生 など</p>



厚岸かぐら



廃漁網を使用したスクールリュック

(2) 式典

海の豊かさと魅力を紹介しながら、北海道の未来の海づくりの誓いとして、北海道らしい演出で発信します。

〈次第〉

1. 受賞者紹介	2. 登壇者／式典補助員紹介	3. 御臨席
4. 大会旗入場	5. 開会のことば	6. 国歌静聴
7. 主催者あいさつ	8. 歓迎のことば	9. 天皇陛下のおことば
10. 功績団体等表彰	11. 最優秀作文の発表	12. 稚魚等のお手渡し
13. 海づくりメッセージ	14. 大会決議	15. 大会旗引継
16. 次期開催県あいさつ	17. 閉会のことば	

■ 稚魚等お手渡し

北海道を代表する4魚種が漁業関係者にお手渡しされ、大会終了後に放流されます。

魚種・特徴	写真
<p>○ホタテガイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国一の生産量を誇り、本道の漁業生産の3割以上を占める重要な魚種である。品質は国際的にも高い評価を得ており、日本を代表する輸出水産物となっている。 ・ オホーツク海では、毎年約30億粒の稚貝を放流する「地まき漁業」、噴火湾や日本海では、稚貝を入れた籠などを海中に吊す「垂下式養殖」による生産が行われており、種苗の安定確保や生残率の向上など、生産の安定化に向けた取組が進められている。 	
<p>○マガキ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本道のサロマ湖や厚岸湖では、以前から天然ガキの生息が知られ、明治の初めころから漁業が行われていた。本道のカキ養殖は、昭和10年ごろから宮城県産の種苗を用いた「垂下式養殖」が始まり、現在に至っている。 ・ 厚岸町では、平成10年度に国内初となるシングルシード方式の種苗センターを建設し、地場の種苗を用いた養殖に取り組んでいる。 	
<p>○エゾバフンウニ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道の全沿岸域に分布し、船上から「箱めがね」で海底を見ながら「たも」や「かぎ」を使ってとる漁法が一般的である。 ・ 昭和60年代に種苗生産技術が開発され、近年は、道内各地の施設で種苗生産が行われており、毎年約4,500万粒の種苗が放流されている。 ・ 北海道漁業調整規則による制限のほか、各漁協が自主的に操業期間や総水揚量の制限、禁漁区を設定するなど、資源管理に取り組んでいる。 	
<p>○マナマコ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古くから干しナマコに加工され、中国等に輸出されている。近年は中国の需要拡大に伴い、輸出が伸長している。 ・ DNA標識を用いた放流技術開発や静穏域を活用した中間育成手法の開発・普及などにより、近年は毎年約700万個の種苗が放流されている。 ・ 北海道漁業調整規則による制限のほか、各漁協が自主的に操業期間や漁獲サイズを制限するなど、資源管理に取り組んでいる。 	

*写真提供：(地独)北海道総合研究機構

■ 海づくりメッセージ

北海道の漁業者・水産加工業者をはじめとする関係者たちが、豊かな海と持続可能な水産業への抱負・展望を力強いメッセージとして発信します。

また、登壇者たちがメッセージを述べる背後には、その内容にふさわしい映像を流し、臨場感のある演出・進行を行います。

〈展開〉（案）

演目	メッセージの内容（方向性）と演出
メッセージ① （若手など）	<p>北の海が与えてくれる日本一の海の幸を守り育てる メッセージの第1段として、地元の若手漁師などに登壇いただき、自らの仕事への想い、豊かなで持続可能な漁業へかける熱意を力強く発信してもらいます。 ＊テーマ&トピックス：栽培漁業、資源管理、将来の夢、など</p>
メッセージ② （夫婦など）	<p>国際的にもブランド力の強い水産物を生産する 豊かな海に育まれた、おいしく安全な「北海道ブランド」の水産物をつくり、とどけていく仕事の誇りと使命を発信。 また、地域の絆、家族への想いなども紹介してもらいます。 ＊テーマ&トピックス：付加価値の高い水産物づくり、仲間との協力、など</p>
メッセージ③ （環境保全活動の関係者など）	<p>海の環境を保全し、海の豊かさを未来に伝える輪を広げる 海洋プラスチックごみ対策の広がり、漁民が始めた植樹活動、そして一般市民と連携する海の環境保全。北海道から全国に向けて、海の豊かさを守る活動の輪を広げようと訴えます。 ＊テーマ&トピックス：廃漁網のリサイクル、海の環境保全イベント、など</p>
協力&決意 （登壇者全員）	<p>豊かな北海道の海と水産業を、未来へとつないでいく 登壇者（メッセージ発言者）が一緒になって、北海道・日本の水産業の未来に向け、持続可能な豊かな海を守り育て、次世代へと伝えていく決意を高らかに発信します。 ＊演出：登壇者全員が協力するラストメッセージとなるよう配慮</p>

〈海づくりメッセージの発表者について〉

- ・漁業者や水産業関係者、環境保全等の取組を行っている方など

(3) エピローグ

■ 演出の考え方

式典行事の終了に際し、大会の意義を再確認するとともに、くつろいだ雰囲気の中かで、北海道の海の元気や魅力を会場の参加者の皆さんと共有する場を設けます。

演出イメージ（案）	出演者
<p>□PART① ナビゲーターの海と漁港の思い出</p> <p>◎ 千堂あきほさんと地元漁師・高校生とのトーク</p> <p>北海道各地の漁港をめぐり、漁師の家族に会っている千堂あきほさんに、訪問地での思い出などを語っていただきます。</p> <p>また、地元の漁師や高校生も参加し、北海道の海への若々しい抱負を楽しく紹介してもらいます。</p> <p>□PART② 豊かな海を未来につなぐメッセージ</p> <p>◎ 音楽などにより豊かな海への想いを表現</p> <p>北海道の海の魅力と明るい未来へのメッセージを音楽やパフォーマンスで表現し、豊かな海を守る想いを会場全体で共有します。</p>	<p>*ナビゲーター 千堂あきほ（調整中）</p> <p>* 地元漁師</p> <p>* 地元高校生 など</p>

基本的な考え方

本道の代表的な漁法紹介（漁船による海上パレード）などで招待者を歓迎します。また、海への感謝の心を育み、「豊かな海」を次世代につなげるため、思いを込めて稚魚の放流を行います。

日時等

- 期 日：令和5年9月17日（日）午後
- 場 所：厚岸漁港
- 招待者数：1,000名程度

実施内容

（1）構成

海上歓迎・放流行事では、様々な漁業に従事する漁船による漁法紹介、稚魚の放流などを行います。

（2）演出

歓迎演奏では、音楽隊による華やかな演奏で、行事の幕開けを演出します。

海上歓迎行事では、こんぶ漁業やさんま棒受け網漁業に従事する漁船などが港内でパレードを行います。パレードの際は、和太鼓の演奏をバックにそれぞれの漁法等の説明を行うものとします。

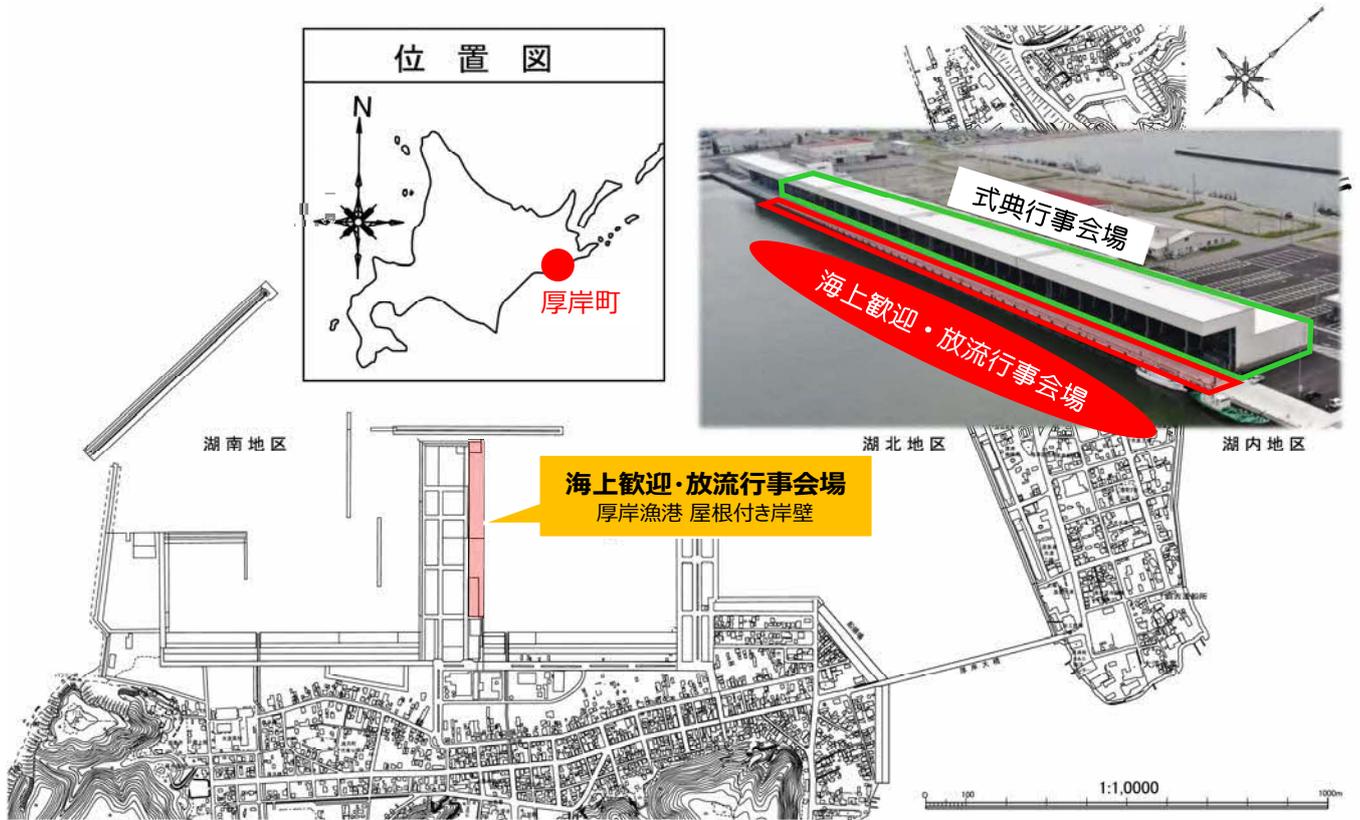
放流行事では、吹奏楽の演奏をバックにマツカワ・ホッケイエビの稚魚の放流を行います。

お見送り時にも、吹奏楽による演奏で感謝の意を表します。

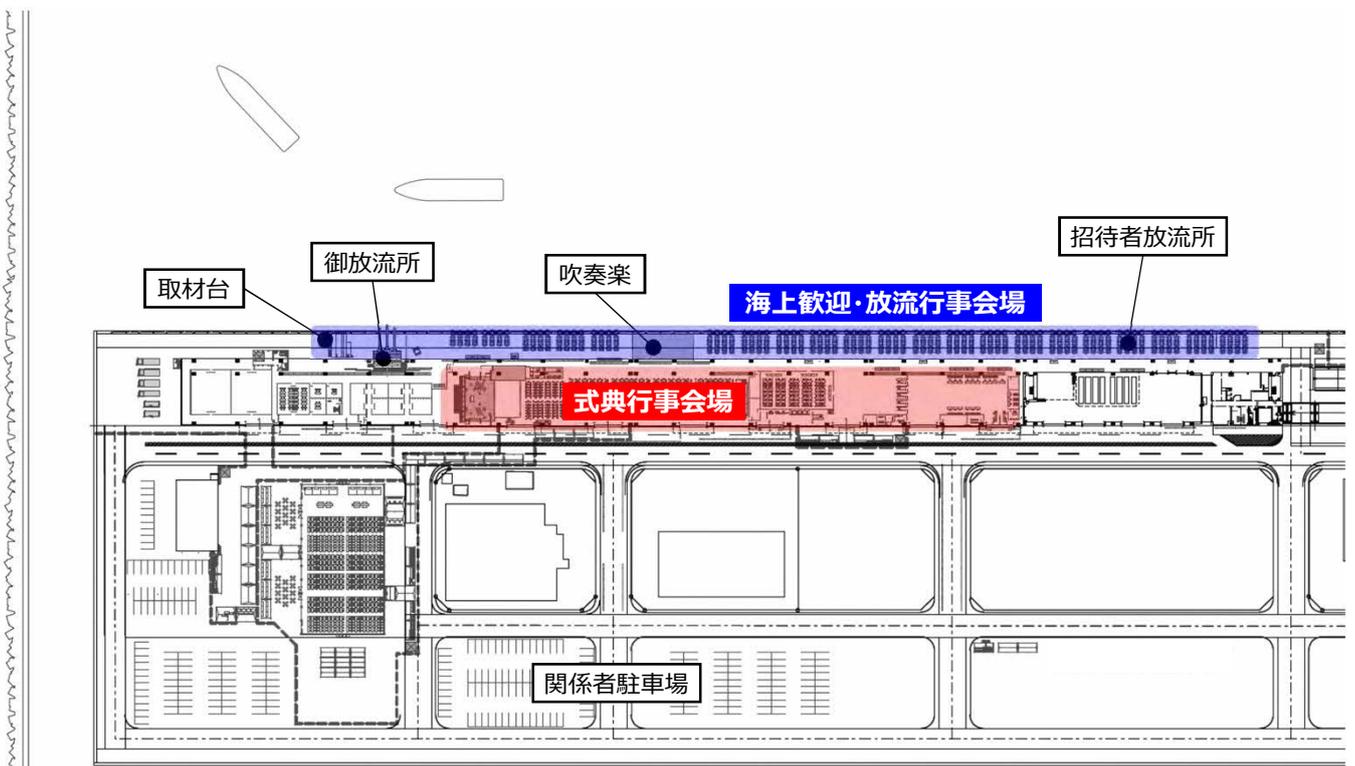


海上歓迎パレードイメージ

会場周辺図



会場全体図

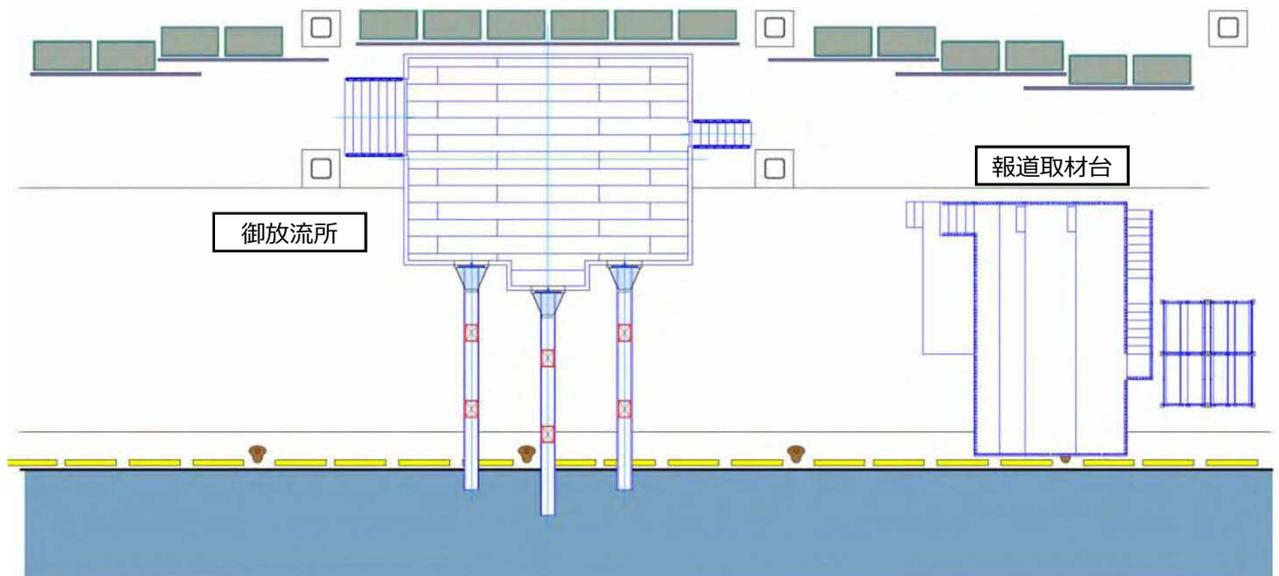


御放流所

御放流所は、漁港の屋根の下に設置し、万が一の風雨の影響を最低限に抑えられる位置へ設置します。また、両陛下のご放流の様子が確実に撮影できるよう、適切な報道取材台の配置を行います。

御放流所の材料は、環境に配慮するとともに、可能な限り道産木材を用いることとします。

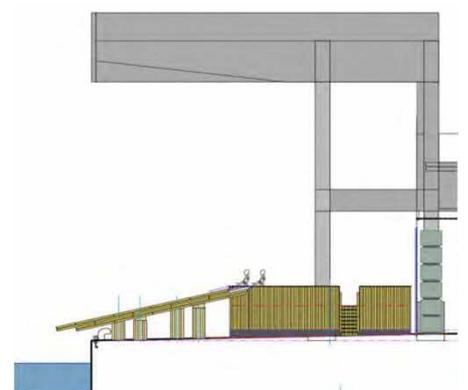
御放流所 平面図



御放流所 正面図



御放流所 側面図



演出進行表

所要時間	次第	演出内容	出演者等	音楽
10'	招待者会場移動・整列	式典行事会場からブロック移動、整列		—
	歓迎演奏		演奏：厚岸町吹奏楽団 厚岸中学校吹奏楽部 真龍中学校吹奏楽部 厚岸翔洋高等学校吹奏楽部	吹奏楽演奏
5'	進行概要説明	プログラム及び注意事項の案内等	司会者	—
2'	奉迎準備	司会者による奉迎の案内		—
2'	御着	北海道知事の先導により御放流台へ御移動	先導：北海道知事 演奏：厚岸町吹奏楽団 厚岸中学校吹奏楽部 真龍中学校吹奏楽部 厚岸翔洋高等学校吹奏楽部	吹奏楽演奏
10'	海上歓迎御覧	漁船等による海上航行（漁法紹介）	海上航行 漁船7隻／漁場管理船2隻／官公庁船2隻 演奏：北海道くしろ蝦夷太鼓保存会 釧路太平洋太鼓保存会	和太鼓演奏
4'	第1回御放流	マツカワ稚魚の放流	御放流介添：厚岸翔洋高等学校 演奏：厚岸町吹奏楽団 厚岸中学校吹奏楽部 真龍中学校吹奏楽部 厚岸翔洋高等学校吹奏楽部	吹奏楽演奏
4'	第2回御放流	ホッケイエビ稚魚の放流	御放流介添：厚岸翔洋高等学校 演奏：厚岸町吹奏楽団 厚岸中学校吹奏楽部 真龍中学校吹奏楽部 厚岸翔洋高等学校吹奏楽部	吹奏楽演奏
2'	御発	北海道知事の先導により御発	先導：北海道知事 演奏：厚岸町吹奏楽団 厚岸中学校吹奏楽部 真龍中学校吹奏楽部 厚岸翔洋高等学校吹奏楽部	吹奏楽演奏
	終了アナウンス	司会より参加者への連絡事項	司会者	—

登壇者・出演者一覧

登壇者	来賓	農林水産大臣 環境大臣 水産庁長官
	主催者	全国豊かな海づくり大会会長〔衆議院議長〕 豊かな海づくり大会推進委員会会長〔全国漁業協同組合連合会代表理事会長〕 豊かな海づくり大会推進委員会顧問〔一般社団法人日本水産会会長〕 豊かな海づくり大会推進委員会顧問〔日本放送協会会長〕 第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会会長〔北海道知事〕 第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会副会長〔厚岸町長〕 第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会副会長 〔（一社）北海道水産会代表理事会長（北海道漁業協同組合連合会代表理事会長）〕 第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会顧問〔北海道議会議長〕 第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会顧問〔厚岸町議会議長〕
その他	介添	厚岸翔洋高等学校
	吹奏楽演奏	厚岸町吹奏楽団、厚岸中学校吹奏楽部、真龍中学校吹奏楽部 厚岸翔洋高等学校吹奏楽部
	海上歓迎演奏	北海道くしろ蝦夷太鼓保存会、釧路太平洋太鼓保存会

海上歓迎行事

北海道内で操業する漁船により、本道で営まれている代表的な漁法を紹介するほか、官公庁船を加えたパレードにより招待者を歓迎します。

漁船	かき・あさり養殖漁業
	こんぶ漁業
	ししゃもこぎ網漁業
	さんま棒受け網漁業
	いか釣り漁業
漁場管理船	漁場管理船（漁協）
官公庁船	漁業取締船
	試験調査船



御放流魚種

海上歓迎・放流行事会場で放流される魚種

魚種・特徴	写真
<p>○マツカワ</p> <ul style="list-style-type: none"> 主に北海道太平洋沿岸に分布し、全長50～80cm に達する大型のカレイで、刺網や定置網などで漁獲されている。一時は漁獲量が極端に減少し「幻の魚」と呼ばれていた。 本道では、資源増大を目指して、北海道栽培漁業センター（伊達市）及びえりもセンター（えりも町）を整備し、平成18年より両施設で年間100万尾の種苗生産と漁業関係者による放流を行っており、漁獲量が着実に増加している。 えりも以西太平洋海域の漁業者は、資源管理協定を締結して全長35cm未達の個体の資源保護に取り組んでいる。 「王鰈（おうちょう）」のブランド名で、主に刺身や寿司ネタにされる高級魚であり、味はカレイ類の中でも最上級と言われている。 	
<p>○ホツカイエビ</p> <ul style="list-style-type: none"> 主に北海道太平洋とオホーツク海沿岸の内湾のアマモ、スガモなどが茂る藻場に生息する。本道では野付湾、サロマ湖、能取湖、厚岸湖、宗谷湾などが主な漁場であり、漁期は6～11月。代表的な地方名称はホツカイシマエビ。 厚岸漁業協同組合えびかご漁業班では、資源増大を図るため、漁期の短縮など、漁業者自らが資源管理を実践するほか、ブランド化にも取り組んでおり、2012年度開催の第18回全国青年・女性漁業者交流大会「資源管理・増殖部門」において農林水産大臣賞を受賞した。 根室管内野付湾でのホツカイエビ漁の歴史は古く、風力で網をひく「打瀬網漁」は明治時代から行われている。 塩ゆでしたときに旨みが引き出されることから、初夏から夏の漁期にゆでたてを食べるのが一番と言われている。 	

* 写真提供：(地独)北海道総合研究機構

放流方法

放流参加者を前方ブロックと後方ブロックに分け、スムーズな進行を図ります。

前方ブロックが1回目（マツカワ稚魚）の放流、後方ブロックが2回目（ホッカイベイ稚魚）の放流を行います。

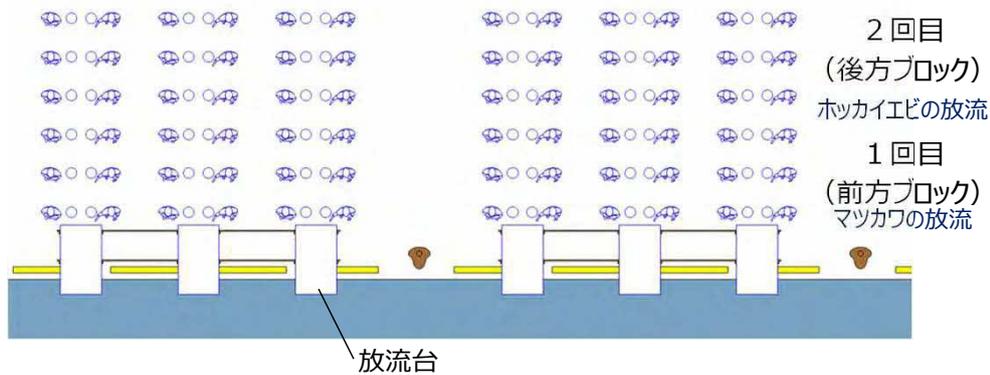
放流参加者の足元には、あらかじめ放流魚を入れたバケツを用意し、補助員の誘導によりスムーズに入れ替わりができるようにします。



*写真提供：兵庫県

兵庫大会（令和4年）での御放流

■ 平面図 【整列イメージ】



平面図

■ 立面図



正面図



側面図

基本的な考え方

本道水産業の特色や環境保全の活動のほか、本道の「食」や「観光」など魅力あふれる「北海道ブランド」を道内外に発信することを目的とした関連行事を開催します。水産業に関する企画展示やステージイベント、ふれあい体験、物産エリアなど、来場者に親しみやすい内容とします。

日時等

- 期 日：令和5年9月16日（土）・17日（日）
- 場 所：厚岸会場 厚岸町 厚岸漁港湖北岸壁
釧路会場 釧路市 観光国際交流センター広場・幸町緑地



厚岸漁港湖北岸壁



釧路市観光国際交流センター広場・幸町緑地

名称

（仮称）豊かな海づくりフェスタ 2023

実施内容

（1）企画展示

本道水産業の特色や漁法の紹介、放流魚種の展示、環境保全や栽培漁業に関する取組等

（2）大会行事中継

大会当日、式典行事と海上歓迎・放流行事の放映を実施

（3）ステージイベント

伝統芸能・著名人などのアトラクション等

（4）物販・飲食

本道の水産物や多彩な地場産品、観光や文化など魅力あふれる「北海道ブランド」をPRする農林水産物の販売・飲食

（5）体験ブース

海の生物に関する学習、環境教育に関する体験等

（6）絵画・習字コンクール入賞作品展示

基本的な考え方

全国豊かな海づくり大会を記念して、道内の児童・生徒を対象に絵画・習字コンクールを実施し、優秀作品を御覧いただきます。

日時等

- 期 日：令和5年9月16日（土）
- 場 所：釧路市内

展示内容

- 絵画部門 北海道知事賞 3点 [小学校（低・高学年）、中学校 各1点]
- 習字部門 北海道知事賞 3点 [小学校（低・高学年）、中学校 各1点]

作品御覧プログラム

進行	出席者等
御着	御先導：北海道知事
絵画・習字優秀作品御覧	御説明：北海道教育長 受賞者：北海道知事賞 〈絵画部門〉 小学校低学年（1年生～3年生）の部 小学校高学年（4年生～6年生）の部 中学校の部 計3名 〈習字部門〉 小学校低学年（1年生～3年生）の部 小学校高学年（4年生～6年生）の部 中学校の部 計3名
御発	御先導：北海道知事



兵庫大会（令和4年）での作品御覧

* 写真提供：兵庫県

基本的な考え方

「第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会」の開催に併せて行われる功績団体表彰の受賞者や道内漁業後継者等と御懇談いただきます。

日時等

- 期 日：令和5年9月16日（土）
- 場 所：釧路市内

御懇談プログラム

進行	出席者等
御着	御先導：北海道知事
御懇談	御説明：北海道漁業協同組合連合会代表理事会長 御懇談：漁業後継者 稚魚等お受取者 功労団体表彰受賞者
御発	御先導：北海道知事



兵庫大会（令和4年）での御懇談



第3章

大会運営計画

基本的な考え方

- (1) 招待者（出演者含む）の受付・案内の対応や各行事の進行管理など、大会運営に係る業務を円滑に実施するため、「第42回全国豊かな海づくり大会北海道実施本部」を設置します。
- (2) 実施本部員は、北海道職員を中心に構成します。
- (3) 大会を円滑に推進するため、事前に関係機関、関係団体との綿密な情報交換・調整を行います。

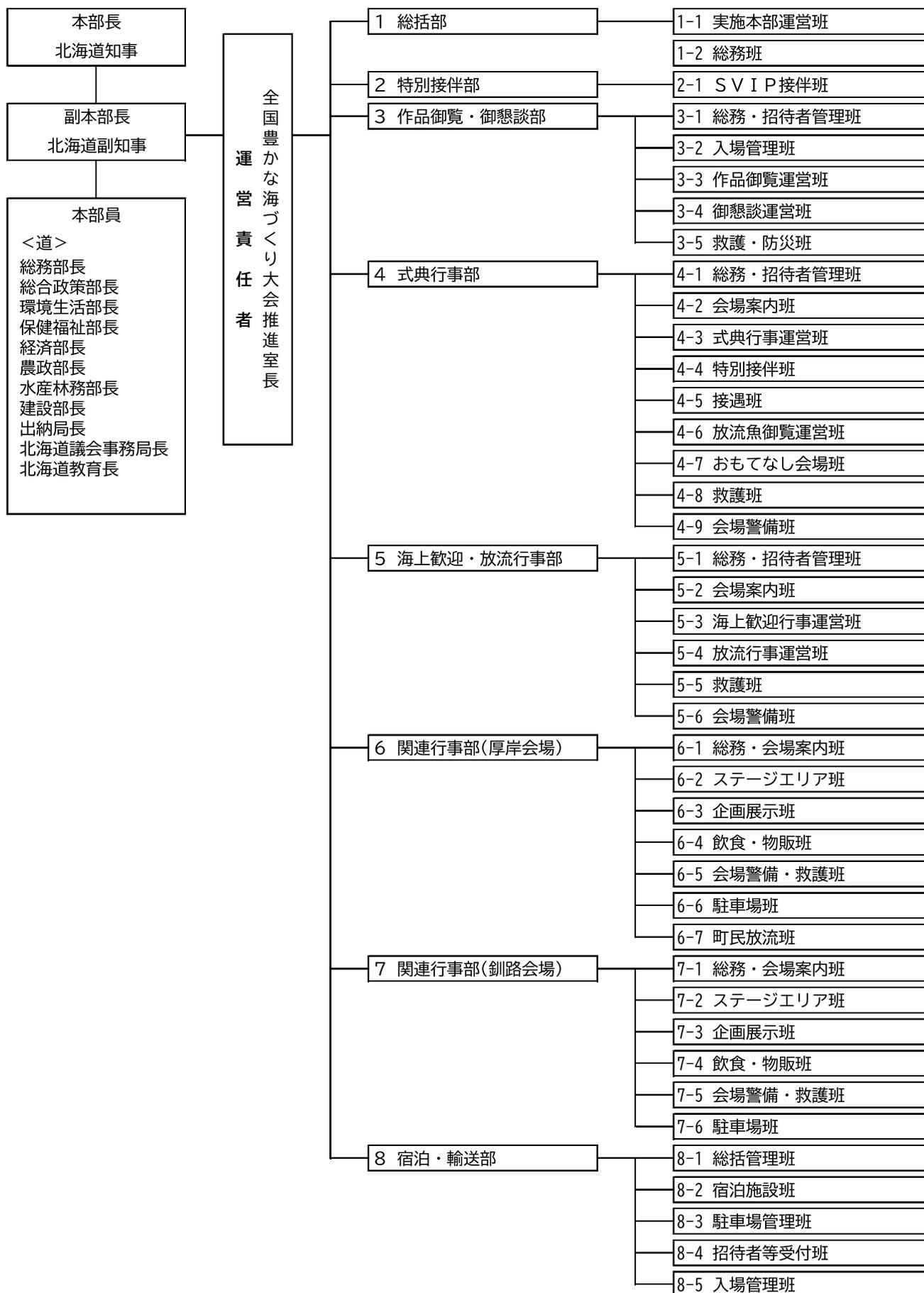
組織及び業務概要

- (1) 実施本部に本部長、副本部長及び本部員を置き、各部には部長及び班長等を置きます。
- (2) 組織や具体の業務内容（案）については別表のとおりとします。

その他

上記のほか、実施本部の組織及び運営に関し必要な事項は、本部長が別に定めます。

【組織図】



【業務内容】

組 織 名		業 務 内 容	
部 名	班 名		
1	総括部	1-1	実施本部運営班 実施本部の総括、大会運営の進行管理 関係機関との連絡調整、報道機関対応、判定会議の運営 他部の事務に属さないこと
		1-2	総務班 道民対応等の窓口、荒天時対応の補助
2	特別接伴部	2-1	S V I P接伴班 S V I Pとの連絡調整・受付・接伴
3	作品御覧・ 御懇談部	3-1	総務・招待者管理班 作品御覧・御懇談の総括管理
		3-2	入場管理班 作品御覧・御懇談招待者の受付・手荷物検査
		3-3	作品御覧運営班 絵画・習字作品御覧の運営進行管理
		3-4	御懇談運営班 御懇談の運営進行管理
		3-5	救護・防災班 救護及び防災対策、医療機関・消防等との連絡調整
4	式典行事部	4-1	総務・招待者管理班 式典行事の総括管理、招待者の名簿管理
		4-2	会場案内班 会場内の総合案内、招待者の会場内誘導
		4-3	式典行事運営班 式典行事の運営進行管理
		4-4	特別接伴班 式典行事における接遇等
		4-5	接遇班 招待者の接遇等
		4-6	放流魚御覧運営班 放流魚御覧の運営進行管理
		4-7	おもてなし会場班 おもてなし会場の運営進行管理
		4-8	救護班 救護及び医療機関・消防等との連絡調整
		4-9	会場警備班 会場及び周辺の警備、防災対策
5	海上歓迎・ 放流行事部	5-1	総務・招待者管理班 海上歓迎・放流行事の総括管理
		5-2	会場案内班 会場内の総合案内、招待者の会場内誘導
		5-3	海上歓迎行事運営班 海上歓迎行事の運営進行管理
		5-4	放流行事運営班 放流行事の運営進行管理
		5-5	救護班 救護及び医療機関・消防等との連絡調整
		5-6	会場警備班 会場及び周辺の警備、防災対策
6	関連行事部 (厚岸会場)	6-1	総務・会場案内班 厚岸会場の総括管理、総合案内
		6-2	ステージエリア班 ステージエリアの運営
		6-3	企画展示班 企画展示ブースの運営
		6-4	飲食・物販班 飲食・物販ブースの運営
		6-5	会場警備・救護班 会場内の警備、救護対策、医療機関等との連絡調整
		6-6	駐車場班 関係者・一般来場者駐車場の管理運営
		6-7	町民放流班 町民放流行事の管理運営
7	関連行事部 (釧路会場)	7-1	総務・会場案内班 釧路会場の運営進行管理
		7-2	ステージエリア班 ステージエリアの運営
		7-3	企画展示班 企画展示ブースの運営
		7-4	飲食・物販班 飲食・物販ブースの運営
		7-5	会場警備・救護班 会場内の警備、救護対策、医療機関等との連絡調整
		7-6	駐車場班 関係者・一般来場者駐車場の管理運営
8	宿泊・輸送部	8-1	総括管理班 行事全体の総括管理、総合案内
		8-2	宿泊施設班 招待者宿泊施設での受付、輸送バス添乗
		8-3	駐車場管理班 駐車場の管理運営
		8-4	招待者等受付班 会場内での受付、手荷物預かり
		8-5	入場管理班 招待者・大会関係者の手荷物検査

基本的な考え方

- (1) 大会の開催趣旨を踏まえ、道内外から水産関係者をはじめ様々な分野から幅広く招待します。
- (2) 招待者は、式典行事及び海上歓迎・放流行事に参加します。

招待者内訳

招待者は、次のとおりとします。

内訳	招待者
道外招待者	国関係者（農林水産省、環境省、水産庁等） 豊かな海づくり大会推進委員会関係者 水産関係中央団体関係者 功績団体表彰受賞者 次期開催県（大分県）関係者 各都道府県関係者 等
道内招待者	道選出国會議員 北海道議會議員、開催町議會議員 水産団体関係者 功績団体表彰・作品コンクール表彰受賞者 市町村関係者 開催町関係者 北海道関係者、北海道実行委員会委員 等

招待者数

招待者数は1,000名程度とします。

区分	招待者数 内訳		合計
	道外招待者	道内招待者	
式典行事	300名程度	700名程度	1,000名程度
海上歓迎・放流行事			

招待者へのおもてなし

(1) 歓迎のおもてなし

空港やJR駅などでの歓迎表示や、北海道らしい心のこもったホスピタリティで招待者をお迎えします。



歓迎表示（兵庫県例）

(2) 会場でのおもてなし

幅広い本道の食の魅力を伝えるため、開催地厚岸町の特産物をはじめとした、本道の農林水産物をふんだんに盛り込んだ大会記念弁当を提供します。

式典行事会場及び海上歓迎・放流行事会場では飲み物のサービスを行います。

関連行事会場では、本道の農林水産物と、その加工品などの試食、販売を行います。



大会記念弁当（兵庫県例）

(3) エクスカーション（視察旅行）の企画

北海道の自然・歴史・水産物をはじめとした「食」など、「北海道ブランド」の魅力を実感していただくため、招待者向けのエクスカーションを企画します。

(4) 大会記念品の提供

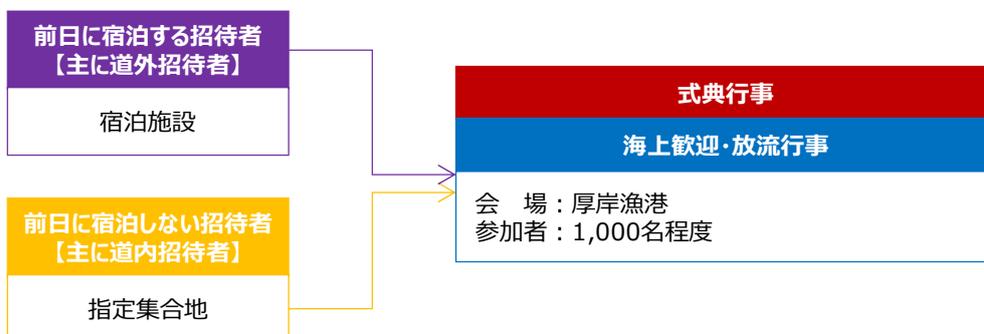
招待者には北海道ならではの心に残る大会記念品を提供します。



記念品（兵庫県例）

招待者の行事参加計画

招待者は、式典行事に参加後、引き続き海上歓迎・放流行事に参加します。



招待者の受付場所と内容

受付の種類 区分	前日受付	1次受付	2次受付
前日に宿泊する招待者 (主に道外招待者)	指定宿泊施設 〔本人確認・資料等の配布 翌日の連絡事項〕	指定宿泊施設 〔本人確認・リストバンド装着 バス乗車誘導〕	行事会場※ 〔本人確認、IDカードの交付 手荷物検査〕
前日に宿泊しない招待者 (主に道内招待者)	—	指定集合地 〔本人確認・リストバンド装着 バス乗車誘導〕	行事会場※ 〔本人確認、IDカードの交付 手荷物検査〕

※関連行事を除く

招待者等の識別

招待者を円滑に案内・誘導するために、胸花、名前札（ID）、リストバンドにより区分します。

区分	式典行事／海上歓迎・放流行事		
	来賓	発表者 受賞者	招待者
胸花	○	○	—
名前札（ID）	—	○	○
リストバンド	—	○	○

招待者情報の管理

大会を円滑に運営するために得た招待者の個人情報については、個人情報保護に関する関係法令を遵守し、個人情報への不正アクセス、紛失、漏えい等の防止措置を講じるなど、適正な管理を行います。

基本的な考え方

道外招待者をはじめ宿泊の手配が必要な方々のため、次の点に留意し、宿泊施設を確保します。

- (1) 宿泊基準に基づき、釧路市内の宿泊施設を中心に配宿します。
- (2) 宿泊料金については、宿泊施設の内容を勘案し、段階別の料金区分を設定し、宿泊者が選択できるようにします。

宿泊予定人数

	道外招待者	道内招待者
大会前日 9月16日(土)	350名程度	450名程度
大会当日 9月17日(日)	200名程度	60名程度

宿泊施設での受付

配宿を行った各宿泊施設に実施本部員を配置して、宿泊する招待者の前日受付業務及び行事当日における1次受付業務及び出発確認を行います。

また、各宿泊施設から式典行事会場へは、実施本部員がバスに添乗するなど、招待者の円滑な案内に努めます。

宿泊者管理

大会参加申込をもとに、宿泊施設別に宿泊者名簿を作成します。

また、宿泊者の中から傷病者が発生した場合など緊急時には、宿泊施設を通じて関係機関への連絡、手配を行います。

大会資料等の配布

大会資料等、宿泊する招待者への配布物（大会資料、観光パンフレット、記念品等）については、各宿泊施設へ事前に配送し、各宿泊施設で配布します。

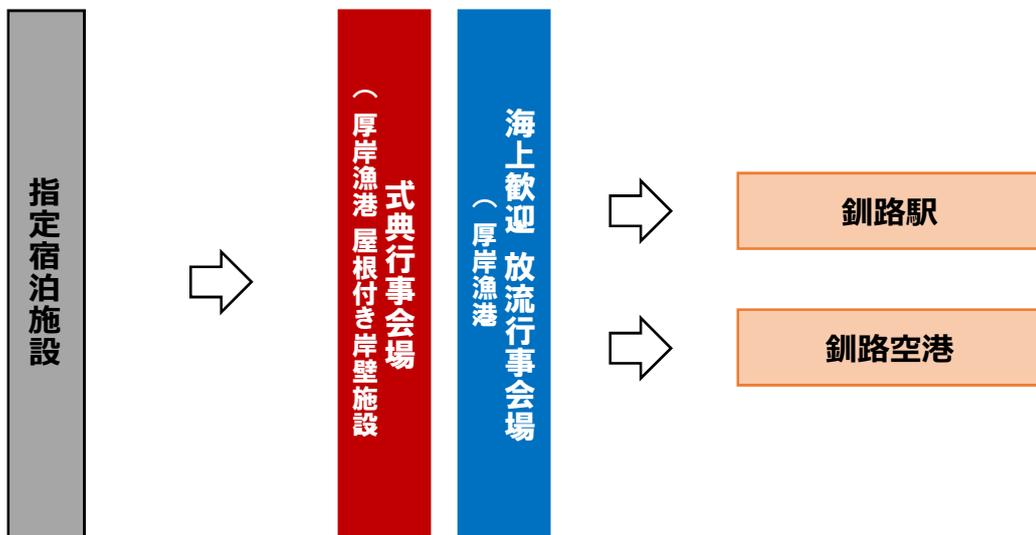
基本的な考え方

輸送計画に基づき、招待者をはじめ、大会参加者の安全かつ円滑な輸送を実施します。

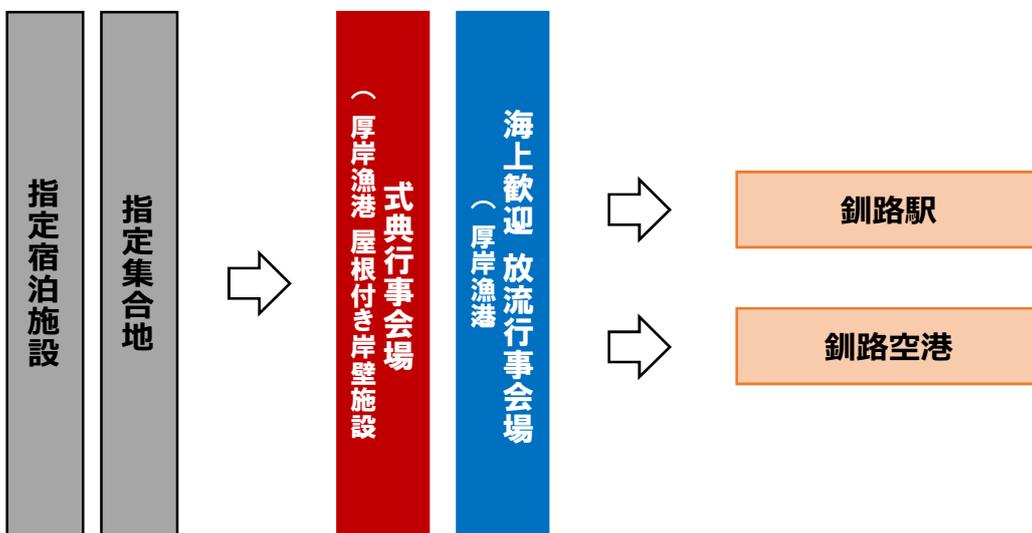
- (1) 指定宿泊施設・指定集合地まで及び指定場所での解散後の輸送は、招待者等が手配するものとします。
- (2) 大会当日の主な道内輸送は、招待者と出演者等を対象に指定宿泊施設及び指定集合地と行事会場間で計画輸送バスを運行します。

【輸送体系図】

◇主に道外の招待者の輸送体系



◇主に道内の招待者の輸送体系



基本的な考え方

輸送基本方針及び輸送計画に基づき、大会会場の規模や会場周辺の交通渋滞緩和を考慮し、必要な駐車場を確保します。

- (1) 道内招待者については、会場近隣に駐車場（指定集合地）を確保するとともに招待者バスを運行（パーク アンド バスライド）することにより、会場への円滑な誘導を図ります。
- (2) 出演者や出展者、報道関係者などの大会関係者については、搬入・搬出車両等のための必要な駐車場を確保します。

駐車場所一覧

駐車場所	対象者
厚岸町 宮園公園	自家用車等で来場する招待者
厚岸漁港 湖南地区臨時駐車場	大会関係者

基本的な考え方

- (1) 来場者の安全確保と会場周辺の交通渋滞緩和のため、地域住民の生活に配慮した必要最小限の交通規制を行います。
- (2) 地元自治体や北海道警察などの関係機関と連携して、式典行事会場及び海上歓迎・放流行事会場周辺の交通規制内容や、関連行事会場までの交通アクセスなどについて広報・情報提供等を行い、大会開催中の交通混雑緩和に努めます。

広報・情報提供

- (1) 道、厚岸町、釧路市の広報誌やホームページ等を活用し、事前に交通規制内容や駐車場の場所などについて周知徹底を図ります。
- (2) 関係機関と連携し、バス、タクシー、トラック等の物流・輸送事業者へ交通規制の内容を周知します。
- (3) 幹線道路等に交通規制告知看板を掲出し、通行車両に周知を図ります。

基本的な考え方

参加者の傷病に対し、医療機関と連携を図り、迅速な救護活動を行います。

救護所の設置

(1) 救護所の設置場所

式典行事会場、海上歓迎・放流行事会場、御懇談会場及び関連行事会場に救護所を設置します。

(2) 医療関係者の配置

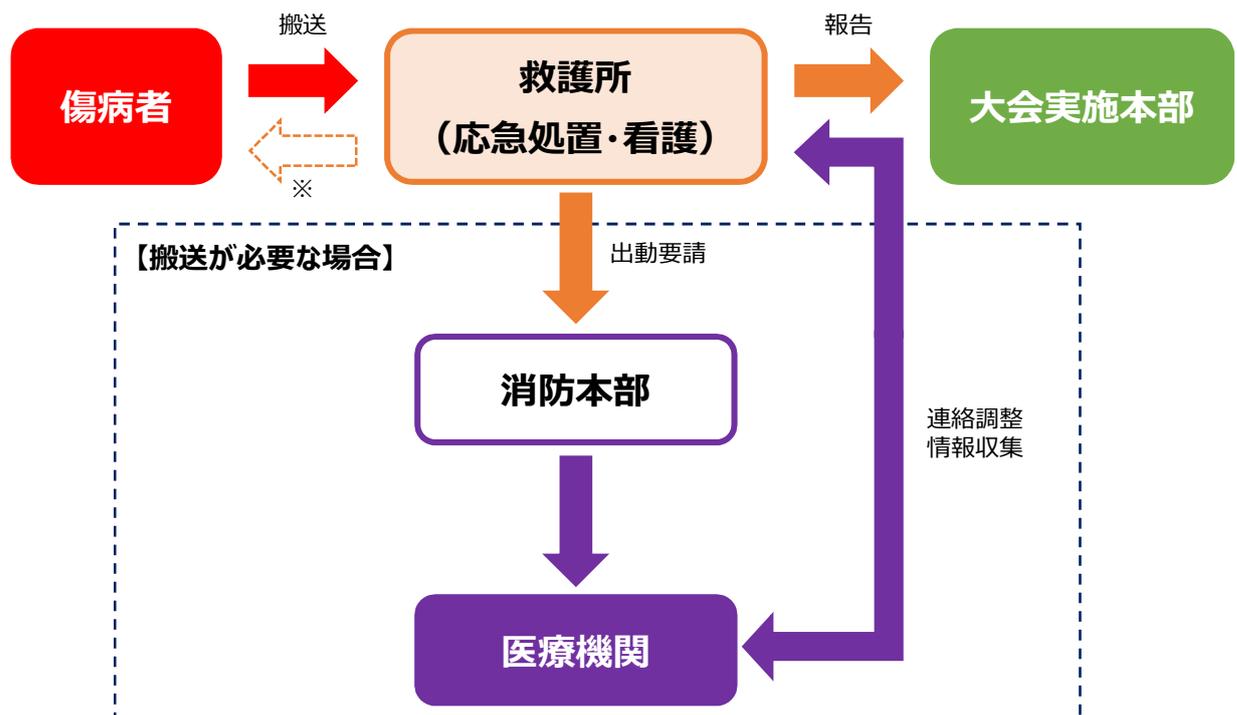
関係機関等の協力を得て、医療関係者を配置します。

(3) 業務内容

- ア 応急処置及び看護
- イ 病院への搬送指示
- ウ 救護記録等
- エ 病院との連絡調整及び傷病者の情報収集

医療・救護体制

〈各会場の体制〉



※傷病者を動かすことができない場合は、救護所から医療関係者を傷病者の元へ向かわせます。

基本的な考え方

- (1) 来場されるすべての方におもてなしの心をもって、温かくお迎えします。
- (2) 各会場内外において、招待者の案内、問い合わせ等に対応します。
- (3) 身体の不自由な方や高齢者への配慮とともに、環境への負荷を軽減し、「人と環境にやさしい」運営を行います。

会場内のサービス

項目	対応方法
案内	案内スタッフが来場者からの問い合わせ等に丁寧に対応します。
放送	催し物の案内、迷子のお知らせ、緊急時の避難誘導等を必要に応じて実施します。
落とし物・迷子	案内所での対応を基本としますが、すべてのスタッフが窓口となり対応します。
救護	救護所を設置し、ケガ人や気分の悪い方に備えて医療関係者を配置します。
車椅子	傷病者や身体の不自由な方の来場に備え、車椅子を準備します。
トイレ	既存の施設を活用するとともに、必要に応じて仮設トイレを設置します。
ゴミ回収	リサイクル促進のため、分別回収用のゴミ箱を設置します。
湯茶	会場内に、湯茶コーナーを設置します。
喫煙	会場内に、喫煙場所を設置します。

サイン計画

- (1) **案内看板**
招待者及び来場者がスムーズに移動できるよう、必要な案内看板を設置します。
- (2) **装飾**
会場周辺に花のプランター等を設置し、会場装飾を兼ねた案内誘導に努めます。

基本的な考え方

式典行事会場及び海上歓迎・放流行事会場、関連行事会場において、一体感のある演出を行うため、大型映像装置等を活用した映像中継を行います。

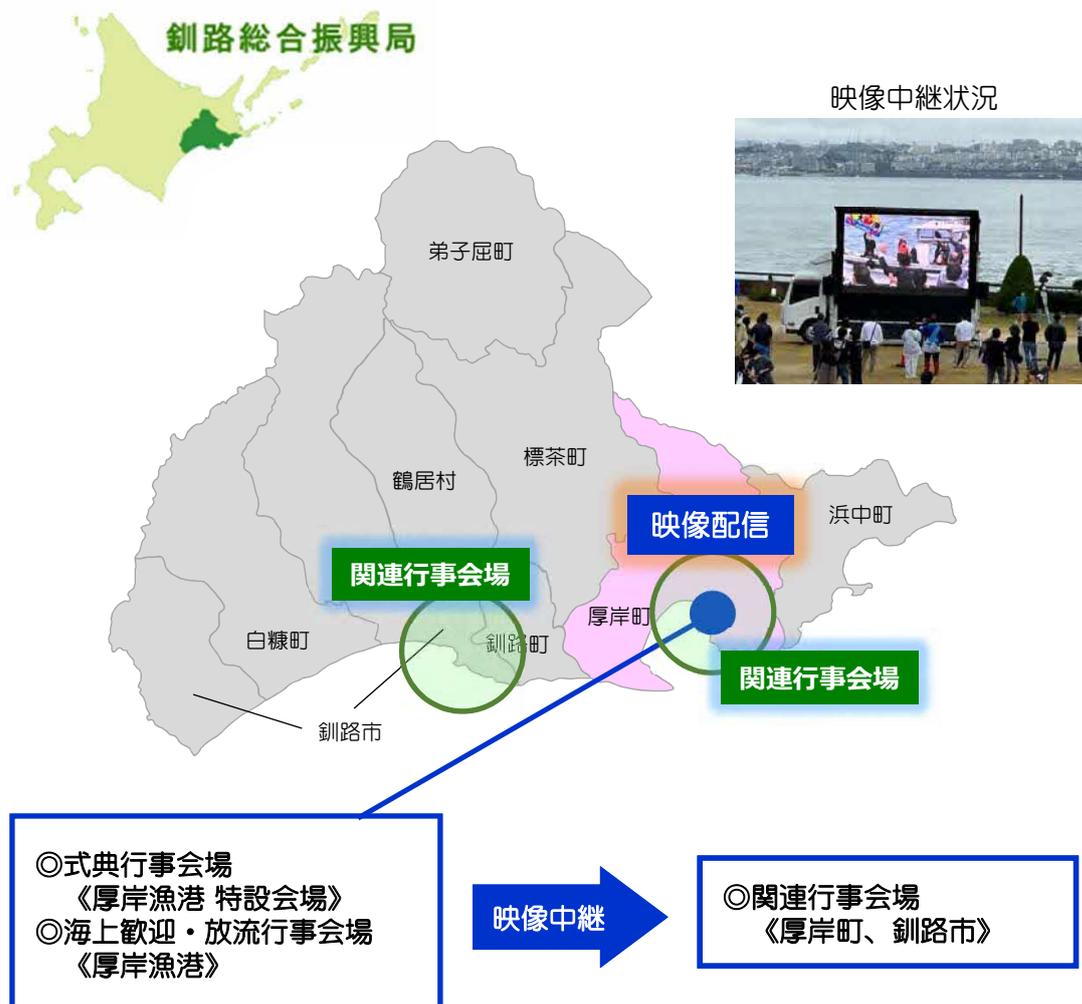
■ 式典行事会場及び海上歓迎・放流行事会場 [厚岸漁港 (厚岸町)]

会場に大型映像装置を設置し、式典の演出や進行、天皇皇后両陛下の御放流の様子など、必要な映像の放映を行います。

■ 関連行事会場 [厚岸漁港湖北岸壁 (厚岸町)、釧路市観光国際交流センター広場・幸町緑地 (釧路市)]

来場者に大会の様子を御覧いただけるように、式典行事及び海上歓迎・放流行事の様態を中継します。

■ 中継システムイメージ図



基本的な考え方

- (1) 荒天により海上歓迎行事の実施が困難であると判断した場合には、荒天時計画（A）に変更し、行事を実施します。
- (2) また、放流行事及び関連行事の一部又は、全ての実施が困難であると判断した場合には、荒天時計画（B）又は（C）に変更し、行事を実施します。
- (3) さらに、暴風雨などの荒天時や、地震等による災害が発生した場合には、すべての行事を中止します。

荒天時計画（A）

行事名	内容
式典行事	計画どおり実施
海上歓迎行事	中止
放流行事	計画どおり実施
関連行事	計画どおり実施

荒天時計画（B）

行事名	内容
式典行事	計画どおり実施
海上歓迎行事	中止
放流行事	中止
関連行事	計画どおり実施

荒天時計画（C）

行事名	内容
式典行事	計画どおり実施
海上歓迎行事	中止
放流行事	中止
関連行事	中止

基本的な考え方

荒天時や地震、突発事案等の非常事態に迅速・適切に対応するため、大会開催の可否等について判定する会議（以下「判定会議」という。）を開催します。

業務内容

荒天や、地震・津波、火災その他突発的事案等の関係情報について収集整理を行い、大会行事の実施の可否等を協議し、その結果を豊かな海づくり大会推進委員会会長及び北海道実行委員会会長に報告し、了承を得ます。

ただし、急を要する場合は、会議を開催せずに議長の判断により避難指示等を行います。

判定会議の構成員（予定）

議長	北海道副知事
副議長	北海道水産林務部長
委員	豊かな海づくり大会推進委員会事務局長 （一社）北海道水産会常務理事 厚岸町副町長 北海道水産林務部水産局全国豊かな海づくり大会推進室長

※必要に応じ、釧路地方気象台、釧路海上保安部、北海道警察本部等とも協議を行います。

判定会議の招集

判定会議は、協議が必要な場合のみ開催することとし、各委員は電話等の方法による参加もできるものとします。

なお、台風の接近などあらかじめ大会開催への影響が予測される場合や、突発的事案が発生した場合は、随時検討を行うものとします。

（1）第1回判定会議

日時：令和5年9月16日（土）

場所：北海道庁

内容：気象情報の確認及び対応策の協議、第2回判定会議開催の要否

（2）第2回判定会議

日時：令和5年9月17日（日）

場所：式典行事会場等

内容：大会実施（中止等）の検討

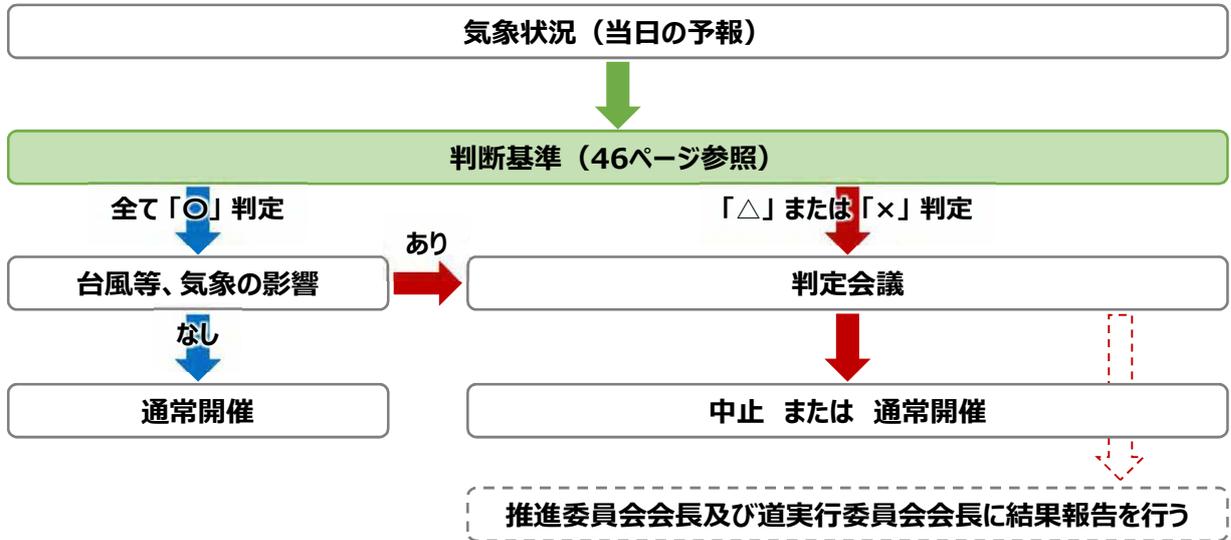
（3）臨時判定会議（概ね大会開催1週間前から大会終了まで）

日時：台風接近時のほか地震・津波、火災その他突発的事案等の発生時など

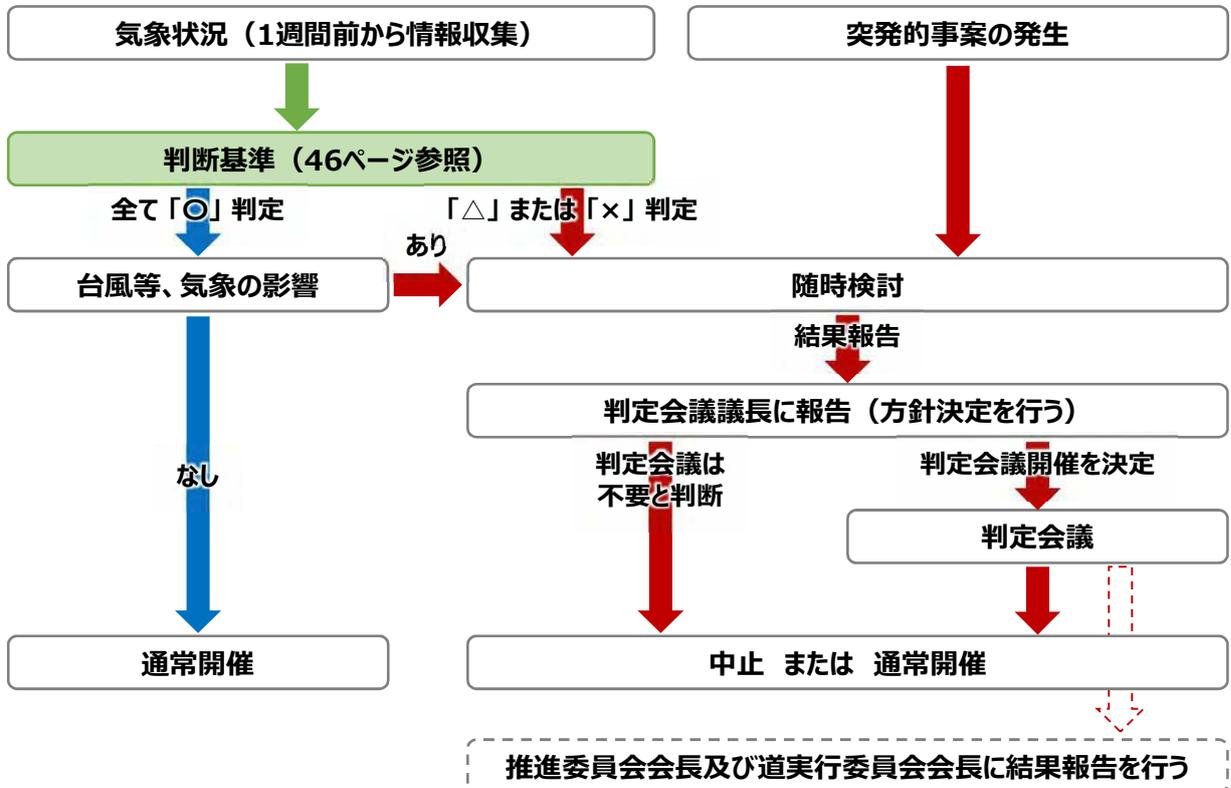
場所：状況に応じて設定

内容：避難実施の判断、中止の判断など

・判定会議の流れ



・随時検討の流れ



大会中止時の周知

大会行事を中止する場合は、連絡網により招待者、指定宿泊施設、関係機関、実施本部員に速やかに伝達し、決定内容に基づき対応します。

また、ホームページ等を活用し、道民等に広くお知らせします。

■ 道ホームページ

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/szu>

■ テレビ・マスコミを通じた周知

大会行事が中止となった場合には、道内各報道機関へ一斉にFAX・電話等でお知らせします。

判定会議のための情報収集（風雨関係）

収集する情報	現況・予測	情報収集先	補助説明
雨量 (mm/h)	現況	アメダスレーダー（気象庁HP）	1時間毎のデータ
		解析雨量（気象庁HP）	30分毎の降水量分布
		雨量・水位情報（国土交通省川の防災情報）	10分毎のデータ
		釧路地方気象台（電話）	10分毎のデータ
	予測	レーダー・ナウキャスト（気象庁HP）	1時間先までの5分毎降水強度分布予測及び雷、竜巻予測
		高解像度降水ナウキャスト（気象庁HP）	1時間先までの5分毎降水強度分布予測
		降水短時間予報（気象庁HP）	6時間先までの1時間毎降水量分布
		土砂災害警戒判定メッシュ情報（気象庁HP）	土砂災害警戒情報及び大雨警報を補足
		大雨警報（浸水害）の危険度分布（気象庁HP）	大雨警報（浸水害）を補足
風速 (m/sec)	現況	アメダスレーダー（気象庁HP）	1時間毎のデータ
		釧路地方気象台（電話）	10分毎のデータ
	予測	24時間予報（気象庁HP）	5時、11時、17時更新
波高 (m)	現況	ナウファス（国土交通省Web）	20分毎の波高
	予測	海上予報（気象庁HP）	7時、19時更新
		波浪予報（国際気象海洋株）	72時間後までの波浪予測、6時間更新
視程 (m)	現況・予測	釧路海上保安部など	目視による調査、予測

※各情報収集先のURL・電話番号等

- ・ 気象庁HP <https://www.jma.go.jp/jp/jma/>
- ・ 国土交通省川の防災情報 <https://www.river.go.jp/index/>
- ・ 国土交通省ナウファス <https://www.mlit.go.jp/kowan/nowphas/>
- ・ 波浪予報（国際気象海洋株） <https://www.imocwx.com/cwm.php>
- ・ 釧路地方気象台 <https://www.jma-net.go.jp/kushiro/>
0154-31-5145
- ・ 釧路海上保安部 0154-22-0118

風雨の情報による判断基準

【○：実施 / △：必要に応じて判断 / ×：中止】

気象条件		式典行事	海上歓迎行事	放流行事	関連行事
雨量 (mm/1h)	20未満		○	○	○
	20以上～40未満	大雨注意報相当	○	△	△
	40以上	大雨警報相当	△	△	△
雨量 (mm/3h)	40未満		○	○	○
	40以上～60未満	大雨注意報相当	○	△	△
	60以上	大雨警報相当	△	△	△
風速 (m/sec)	13未満		○	○	○
	13以上～18未満	強風注意報	○	△	△
	18以上	暴風警報	○	×	×
波高 (m)	3.0未満		○	○	—
	3.0以上～6.0未満	波浪注意報	○	△	○
	6.0以上	波浪警報	△	×	△
視程 (m)	1,000以上		—	○	—
	1,000未満		—	△	—

※行事ごとに最も悪条件となっている気象状況を判断基準とします。

※「波高」及び「視程」の気象条件は、海上歓迎行事にのみ適用します。

※福岡県で開催された第37回大会（平成29年）では、平均風速16m/secで、海上歓迎・放流行事が中止されました。

基本的な考え方

- (1) 大会会場の安全と秩序の維持を図るため、式典行事会場、海上歓迎・放流行事会場及び周辺における禁止行為等を定めた会場運営管理要綱を策定します。
- (2) 会場運営管理要綱の内容を招待状に同封するとともに、会場内に表示して来場者への周知を図ります。
- (3) すべての来場者が、安全かつ安心して大会に参加できるよう、施設の巡回点検により事故の未然防止に努めます。

会場の衛生管理・対策

- (1) 会場に配置する実施本部員が、ごみ収集等の清掃活動を実施するとともに、ごみ収集場の適正な管理を行います。
- (2) 会場で提供される弁当の調製業者に対して、衛生管理に関する事前指導等を実施します。
- (3) 大会会場内に出展（店）される食品取扱者（食品調製者及び食品販売者）に対して、衛生管理に関する事前指導等を実施します。
- (4) 大会会場内の仮設給水施設設置者に対して、衛生管理に関する事前指導等を実施します。

会場警備

会場内に設置した仮設物等の管理保全のため、大会開催前及び開催中は、常駐警備体制をとり、巡回点検します。

通信連絡体制

大会の円滑な運営を図るため、大会期間中は、携帯電話、携帯無線通信等を活用し、大会実施本部の各部門内及び各部門間の通信連絡体制を確立します。

「第42回全国豊かな海づくり大会」会場運営管理要綱（案）

（趣旨）

第1条 この要綱は、令和5年9月16日・17日開催の「第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会」（以下「海づくり大会」という。）の円滑な運営と秩序の保持を図るため、海づくり大会会場（以下「会場」という。）における運営管理に係る必要な事項を定めるものとする。

（運営管理者）

第2条 会場の運営管理者（以下「管理者」という。）は、第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会（以下「実行委員会」という。）会長とする。

2 管理者の権限に属する業務の処理は、大会実施本部員の職員（以下「職員」という。）が行う。

（適用範囲）

第3条 この要綱において適用する会場及びその区域は次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 式典行事会場：厚岸漁港屋根付き岸壁施設及びその周辺のうち、管理者が指定する区域
- (2) 海上歓迎・放流行事会場：厚岸漁港及びその周辺のうち、管理者が指定する区域
- (3) 絵画・習字作品御覧及び御懇談会場：会場となる施設及び管理者が指定する区域
（持ち込み禁止物件）

第4条 何人も、会場に次の各号に掲げる物件を持ち込んで서는ならない。ただし、管理者が特に認めるときは、この限りでない。

- (1) 凶器
- (2) 模造刀、玩具銃、護身用具、棒状の物（介護用具を除く。）等凶器となり得る物
- (3) 毒物、劇物、爆発物、火薬類、油類、火気（ライターを含む。）、薬品類（医薬品を除く。）、工具類その他の危険物
- (4) カッターナイフ、ハサミ等の刃物類
- (5) 水筒、瓶類、缶類（スプレー缶を含む。）及びペットボトル類
- (6) 旅行鞆、手提げ鞆等の荷物類
- (7) 傘類
- (8) 動物類（身体障害者補助犬法（平成14年法律第49号）第2条に規定する身体障害者補助犬を除く。）
- (9) 酒類
- (10) ワイヤレスマイク、ドローン、ラジコン機器（航空機、自動車、船舶等）等電波を送受信する機器、無線通信機器（携帯電話、スマートフォン等の携帯端末（以下「携帯電話等」という。）を除く。）
- (11) 拡声器、オーディオ機器、ポータブルゲーム機、楽器、サーチライト、レーザーポインター、反射鏡等、音又は光を発するもので、使用方法により他の入場者や海づくり大会の運営に迷惑となるおそれのある物
- (12) カメラ、ビデオカメラ、三脚等の撮影機器
- (13) 前各号に定めるもののほか、海づくり大会の円滑な運営と秩序の保持を妨げ、又は妨げるおそれのある物

（禁止行為）

第5条 何人も、会場及びその周辺において、次の各号に掲げる行為を行ってはならない。ただし、管理者が特に認めた場合は、この限りでない。

- (1) 招待状又は来場者識別証を携帯せずに会場内へ入場すること。
- (2) 許可を受けずに撮影を行うこと（携帯電話等に付属された機能を用いて撮影する場合を含む。）
- (3) 立入を制限し、又は禁止された区域に正当な理由なく立ち入ること。
- (4) ドローン等の飛行物体、ラジコン機器（航空機、自動車、船舶等）を侵入等させること。
- (5) 酒気を帯びて会場内へ入場すること。

- (6) 通行の妨害となる行為をすること。
 - (7) 威嚇又は喧噪にわたる行為を行うこと。
 - (8) 会場内の施設、工作物、器物、装置等を汚損、若しくは破損し、又はみだりに操作すること。
 - (9) 関係者に面会を強要すること又は会場内に居座ること。
 - (10) 所定の区域以外において火気を使用（喫煙を含む。）又はゴミその他の汚物を廃棄すること。
 - (11) 所定の区域以外への車両若しくは船舶等の進入、駐車、停泊又は駐輪をすること。
 - (12) 抗議集会、デモ等会場秩序を乱すおそれのある行為をすること。
 - (13) 前各号に定めるもののほか、会場の秩序を乱し、海づくり大会の円滑な運営及び進行を妨害するような行為をすること。
- （許可を要する行為）

第6条 会場及びその周辺において、次の各号に掲げる行為をしようとする者は、あらかじめ管理者の許可を受けなければならない。ただし、管理者が特に認めた場合はこの限りでない。

- (1) 文書、図面、写真、図書その他の印刷物等を掲示し、頒布又は散布すること。
- (2) 掲示板、立看板、横断幕、懸垂幕、旗、のぼり、アドバルーン、風船、ゼッケン、プラカード等を持ち込み、掲示、掲揚又は着用すること。
- (3) ガスその他これに類似する火気を使用すること。
- (4) 宣伝、勧誘、講演、集会、物品の販売又は寄付の募集その他これらに類する行為をすること。
- (5) テント、小屋その他の工作物を設置すること。

2 管理者は、前項の許可をする場合において、必要な条件を付すことができる。

（遵守事項）

第7条 何人も、会場において次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。ただし、管理者が特に認めた場合はこの限りでない。

- (1) 安全確保のため、手荷物等の検査に応じるとともに、持ち込み禁止物件など携行できない物件は管理者に預けること。
- (2) 管理者が交付した来場者識別証を外部から視認できるように携行するとともに、破損、亡失等の場合は、速やかに職員に申し出て指示を受けること。
- (3) 招待状及び本人確認書類（運転免許証、パスポート、個人番号カード等）を携帯し、会場の警備を行う者が本人確認書類の提示を求めた場合にはこれに応じること。
- (4) 携帯品は管理者が交付した透明袋に入れて携行すること。
- (5) 職員の指示、案内、誘導等に従うこと。
- (6) 指定された場所において観覧すること。ただし、職員等が移動を指示した場合はこれに従うこと。
- (7) 携帯電話等の電源を切るか、マナーモードに設定すること。
- (8) ゴミ処理方法の遵守及び清潔維持に努めること。
- (9) 各自が火災、盗難その他の事故防止に努めること。
- (10) 管理者が定める「新型コロナウイルス感染症対策計画」に基づき実施する感染予防対策に従うこと。

（質問等）

第8条 管理者が必要と認める場合は、来場者等に対して質問をし、本人確認書類の提示を求め、又は必要な事項を指示することができる。

（入場の制限）

第9条 管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、会場への入場の拒否、行為の中止、会場からの退場、その者の負担による持ち物の撤去及びその他必要と認められる措置を命じ、又は管理者の許可なく侵入、放置等された物件に対し必要な措置を講じることができる。

- (1) 第4条の各号に掲げる禁止物件を持ち込んだ者若しくは持ち込もうとする者、又は当該物件
- (2) 第5条の各号に掲げる行為を行った者若しくは行うおそれのある者、又は当該物件
- (3) 許可なく第6条第1項の各号に掲げる行為を行った者若しくは行うおそれのある者、又は当該物件
- (4) 正当な理由なく、第7条の各号に掲げる事項を遵守しない者
(警備要請)

第10条 管理者は、北海道警察本部長及び第一管区海上保安本部長に対し、事前に警備要請を行うものとし、必要があると認める場合、職員は会場に配置されている警察官及び海上保安官に協力を求めることができる。

(告知)

第11条 管理者は、第4条から第9条までの内容について、会場に告知板を設置する方法等により、告知するものとする。

(雑則)

第12条 この要綱に定めるもののほか、会場の運営管理に関し必要な事項は、管理者が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、令和5年 月 日から施行する。
- 2 この要綱の適用期間は、令和5年9月16日から同月17日までとする。

基本的な考え方

新型コロナウイルスの感染防止のため、大会参加者が遵守すべき事項を定めるとともに、各会場においてできる限りの対策を講じます。

具体的な対策に関しては、『第42回全国豊かな海づくり大会における新型コロナウイルス感染防止対策計画』を別途作成し、計画に従い実施します。

参加者区分に応じた対策

大会参加者を下記に区分し、参加者区分に応じた対策を定める。

- (1) 主催者 …………… 実施本部員
- (2) スタッフ …………… JVスタッフ
- (3) 招待者 …………… 特別招待者、一般招待者
- (4) 出演者 …………… 司会者、出演者
- (5) 報道 …………… 報道関係者
- (6) 一般来場者 …………… 関連行事の来場者

各施設・会場毎に実施すべき対策

大会会場内において、下記各施設における「接触感染防止策」「飛沫感染防止策」を実施する。

- (1) 本会場
- (2) 受付
- (3) 手洗い場所・トイレ
- (4) 控室・更衣室等の諸室
- (5) 出展、売店、休憩所
- (6) ごみ回収時
- (7) 清掃時

宿泊・輸送に関する対策

大会において「宿泊・輸送における感染予防計画」を作成し、感染防止策を実施する。



第4章

機運醸成及び 広報計画

基本的な考え方

次世代を担う児童・生徒に大会の開催意義や海・川の恵み、環境保全の大切さを広く理解してもらうために作品コンクール（作文・絵画・習字）を実施します。

実施概要

（1）作文コンクール

ア 主催

豊かな海づくり大会推進委員会
第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会

イ 募集期間

令和5年4月3日（月）～6月2日（金）

ウ 募集対象者及び募集部門

- 対象：北海道内の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校及び特別支援学校（小学部、中学部、高等部）の児童、生徒
- 部門：小学校低学年の部（1年生～3年生）、小学校高学年の部（4年生～6年生）、中学校の部（全学年）、高等学校の部（全学年）

エ 題材

「海」、「川」、「森」、「水産業」に関するもの。（海・川・森での体験や思い出、海・川の幸や水産業について思うこと、豊かな海を守るためにできることなどに関するものなど）

オ 入賞等

- 入賞：大会会長賞、農林水産大臣賞、環境大臣賞、水産庁長官賞、北海道知事賞（募集部門ごとに各賞1点）
- 入選：最終審査の対象作品のうち、入賞作品以外の作品
- 表彰：入賞者は「第42回全国豊かな海づくり大会」の式典行事で表彰します。
- 発表：大会会長賞受賞作品のうち1作品については、式典行事において受賞者本人から発表することとします。

カ 応募方法

学校単位で、第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会へ応募するものとします。



(2) 絵画・習字コンクール

ア 主催

第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会

イ 募集期間

令和5年4月3日（月）～6月2日（金）

ウ 募集対象者及び募集部門

- 対象：北海道内の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程に限る。）及び特別支援学校（小学部、中学部）の児童、生徒
- 部門：小学校低学年の部（1年生～3年生）、小学校高学年（4年生～6年生）、中学校の部（全学年）

エ 題材

- 絵画：「海」、「川」、「森」、「水産業」に関するもの。（海・川・森での体験や思い出、海・川の幸や水産業について思うこと、豊かな海を守るためにできることなどに関するものなど）
- 習字：大会の開催目的や基本理念を考慮し、以下の題字とします。
 - ・ 小学校低学年の部（1年生～3年生） … 「うみ」
 - ・ 小学校高学年の部（4年生～6年生） … 「豊かな海」
 - ・ 中学校の部（全学年） … 「光輝く海」

オ 入賞等

- 入賞：北海道知事賞、北海道教育委員会教育長賞、北海道漁業協同組合連合会代表理事会長賞（募集部門ごとに各賞1点）
- 入選：募集部門ごとに3点以内
- 表彰：入賞者は「第42回全国豊かな海づくり大会」の式典行事で表彰します。

カ 応募方法

学校単位で、第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会へ応募するものとします。

基本的な考え方

大会開催に向け、大会100日前イベントをはじめとする行事の開催を通して、全道的な機運醸成を図るとともに、道内外からの招待客をお迎えするため、地域と一体となった盛り上がりを創出します。

また、稚魚の放流や海浜清掃などの「豊かな海づくり活動」を通じて、子どもから大人までの幅広い道民に環境保全の大切さを理解していただくとともに、大会終了後も本活動が道内全域に定着するよう努めます。

活動内容

(1) 北海道豊かな海づくりフェスティバル（大会100日前イベント）

- 期日： 令和5年5月下旬（予定）
- 場所： 札幌駅前通地下広場（チ・カ・ホ）（予定）
- 内容： 大会PRに関する企画展示、ふれあい体験、物産販売など

(2) 豊かな海づくりキャラバン

- 期日： 通年（大会開催まで）
- 場所： 道内全域
- 内容： 海や魚に関連したイベントや集客力の高いイベントと連携し、機運醸成を図ることを目的としたPR活動を道内全域で継続的に展開

(3) 大会記念リレー放流

- 期日： 令和5年4月～10月頃
- 会場： 道内全域
- 内容： 本道の漁業協同組合及び市町村等の協力のもと、園児・児童等による稚魚の放流を実施

(4) 魚食・食育普及活動

- 期日： 通年
- 場所： 道内全域
- 内容： 子ども達に魚を「見る・触れる・食べる」機会を提供し、魚を身近に感じ興味をもってもらいながら、水産資源の保護、環境教育や家庭での魚食普及を図ることを目的に開催

(5) 海浜清掃の実施

- 期日： 通年
- 会場： 道内全域
- 内容： 市町村及び漁業団体、企業等と連携し、道民や漁業者参加の海浜清掃活動を実施

(6) 海洋プラスチックゴミ問題の周知・啓発

- 期日： 通年
- 会場： 道内全域
- 内容： 海洋プラスチックゴミへの関心・意識を高めるための周知・啓発活動を実施

基本的な考え方

大会テーマや大会ロゴマークなどを活用しながら、大会関連情報について各種媒体を通じて積極的かつ効果的な広報活動を実施します。

活動内容

(1) 大会テーマ、大会ロゴマーク等を活用した広報

公募により決定した大会テーマの普及を図るとともに、大会ロゴマークやご当地キャラクターなどを活用したPR活動を展開します。

(2) 印刷物による広報

各種印刷物や既存の広報誌などを活用した広報活動を展開します。

(3) 多様なメディアによる広報

報道機関への情報提供やインターネットなどの多様なメディアの活用により、大会に関する情報を迅速かつ広域的に発信します。

(4) コンクール実施による広報

豊かな海づくり大会推進委員会との共催により、作文・絵画・習字のコンクールを行い、大会の開催趣旨などを広く啓発します。

(5) 屋外広告物等による広報

懸垂幕や横断幕、カウントダウンボードなどの設置により、大会の開催について広く周知します。

(6) 大会記念誌等の制作

開催までの取組や大会当日の様態を記録し、大会記念誌及び記念映像を制作します。

年度	月	大会開催計画	機運醸成	広報計画	
令和4年度	2月				
	3月				
令和5年度	4月	実行委員会総会開催 (実施計画書決定) 大会実施本部設置		公式ポスター配布 大会記念作品募集 (作文・絵画・習字)	
	5月		100日前イベント		
	6月				
	7月				
	8月				
	9月		第42回全国豊かな海づくり大会		
	10月				
	11月				
	12月				
	1月				
2月					
3月		実行委員会総会開催 (解散総会)		大会実績報告書 記録DVD制作	



**第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会
(事務局：北海道水産林務部水産局全国豊かな海づくり大会推進室)**

〒060-8588 北海道札幌市中央区北3条西6丁目
北海道庁 10階

TEL : 011-206-6563 FAX : 011-232-1140
E-mail : suirin.umizukuri@pref.hokkaido.lg.jp
URL : <https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/szu/top.html>